

静岡県月例経済報告

(平成31年3月号)

……平成31年1月を中心とした県内経済のすがた……

No. 515

—静岡県経済産業部—

目 次

I 静岡県経済の概況	1
II 静岡県主要経済指標の概況	4
・ 需要面	4
・ 生産面	12
・ 雇用面	14
・ その他	17
III 静岡県主要産業の動向	21
IV データからみた県内主要産業	24

利用にあたって

- 1 本月報は、本県経済の状況について、経済統計及び産業動向をとりまとめたものである。
- 2 本月報は4部から構成されている。
- 3 第1部では、本県経済の概況について経済統計データを中心に述べているが、指標によっては当該月データが未公表のため前月値を用いる場合がある。これらの指標は文中に示している。
- 4 第2部では、本県経済の動向について主要経済指標を用いて、データとグラフで示している。
- 5 第3部では、本県の主要産業動向について簡単にまとめている。
- 6 第4部では、本県の主要産業動向についてデータで示している。
- 7 本月報で用いた ▲はマイナスを表している。
- 8 数字の単位未満は四捨五入することを基本としているが、情報提供元の公表方法に準拠させている。

この「静岡県月例経済報告」は、静岡県経済産業部のインターネット・ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス(URL) <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>

I 静岡県経済の概況

〔本稿は、平成31年1月を中心とした経済統計及び企業ヒアリングをもとに取りまとめている。〕

概況

平成31年1月を中心とした静岡県の景気は、緩やかに回復している。

先行きについては、意欲的な設備投資計画などを背景に、景気回復の動きが確かなものとなることが期待されるものの、生産の回復状況と海外の政治経済情勢に注意する必要がある。

雇用情勢は、改善の動きを続けている。

- ・ 個人消費は、緩やかに持ち直している。
- ・ 設備投資は、増加の動きがみられる。
- ・ 輸出は、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 生産は、持ち直しの動きがみられる。

(下線部は前月からの変更箇所)

需要面

「個人消費は、緩やかに持ち直している」

大型小売店販売額(1月)は、百貨店が5か月連続、スーパーが2か月ぶりに前年実績を下回ったことから、総額でも2か月ぶりに前年実績を下回った。

専門量販店等販売額(1月)は、家電大型専門店、ホームセンターがいずれも2か月ぶりに前年実績を下回ったものの、コンビニエンスストアが3か月連続、ドラッグストアが23か月連続で前年実績を上回ったことから、総額でも8か月連続で前年実績を上回った。

自動車(新車)新規登録台数(1月)は、乗用車が2か月ぶり、軽自動車が4か月連続で前年実績を上回ったことから、総数でも4か月連続で前年実績を上回った。

「住宅建設は、前年を下回った」

新設住宅着工戸数(1月)は、持家が5か月連続で前年実績を上回ったものの、貸家が2か月連続、分譲住宅が3か月連続で前年実績を下回ったことから、全体でも2か月連続で前年実績を下回った。

「公共投資は、前年を下回った」

公共工事請負金額(1月)は、4か月ぶりに前年実績を下回った。

「設備投資は、増加の動きがみられる」

日銀短観(平成30年12月14日)の平成30年度の設備投資(含む土地投資)(計画)は、製造業、非製造業、全産業の全てにおいて増加する計画となっている。

また、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資(除く土地投資)(計画)は、製造業、非製造業、全産業の全てにおいて増加する計画となっている。

着工建築物床面積(非居住用)(1月)は、2か月ぶりに前年実績を下回った。

「輸出は、持ち直しの動きがみられる」

「輸入は、前年を上回った」

輸出総額（1月）は、自動車²が2か月連続で前年実績を上回ったものの、原動機が8か月ぶり、エアコンが2か月ぶり、自動車の部分品が4か月連続、二輪自動車類が12か月連続、科学光学機器が7か月連続で前年実績を下回ったことから、総額でも6か月ぶりに前年実績を下回った。

また、輸入総額（1月）は、魚介類及び同調製品が2か月ぶり、自動車の部分品が10か月ぶりに前年実績を下回ったものの、木材が3か月ぶり、パルプ、原動機がいずれも2か月ぶり、紙類及び同製品が2か月連続で前年実績を上回ったことから、総額でも10か月連続で前年実績を上回った。

なお、輸出入のバランスは、467億円の輸出超過となった。

生産面

「生産は、持ち直しの動きがみられる」

鉱工業生産指数（12月）は、はん用・生産用・業務用機械が14か月連続、化学、パルプ・紙・紙加工品がいずれも3か月ぶりに前年水準を下回ったものの、電気機械が6か月連続、輸送機械、食料品・たばこがいずれも4か月連続で前年水準を上回ったことから、総合でも3か月連続で前年水準を上回った。また、2か月ぶりに上昇した。

なお、鉱工業在庫指数（12月）は、総合では15か月連続で前年水準を上回った。

雇用面

「雇用情勢は、改善の動きを続けている」

有効求人倍率（1月）は1.69倍で、前月を0.03ポイント上回った。また、60か月連続で1倍を上回った。なお、23か月連続で全国値を上回った。

雇用保険受給者実人員（1月）は、66か月連続で前年実績を下回った。

また、所定外労働時間指数（12月）は、13か月連続で前年実績を下回った。

その他

「金融環境は、貸出残高、信用保証金額のいずれも前年を下回った」

県内金融機関の貸出残高（1月）は、前年同月比 1.5%減と前年実績を下回った。

信用保証協会保証金額（1月）は、前年同月比 6.7%減と前年実績を下回った。

「企業倒産は、件数、負債総額のいずれも前年を下回った」

企業倒産（2月）は、件数は12件（前年同月比 45.4%減）、負債総額は14億9,500万円（同 44.3%減）と、いずれも前年実績を下回った。

<トピックス> 「平成31年度当初予算」の概要

富国有徳の美しい“ふじのくに”づくり ～ One for All, All for One ～

新たな時代を迎える中、「静岡県の新ビジョン」の取組を積極果敢に進め、本県を ドリームス Dreams come true in Japan の拠点（ふじのくにドリカムランド）とするため、「富をつくる産業の展開」など8つの政策を着実に実行します。

平成31年度当初予算 一般会計 1兆2,066億円 【対前年比 194億円増（1.6%増）】

（単位：百万円・％）

区分	31年度当初	30年度当初	増減	伸率
一般会計	1,206,600	1,187,200	19,400	1.6
特別会計	828,528	816,407	12,121	1.5
企業会計	83,747	70,186	13,561	19.3
合計	2,118,875	2,073,793	45,082	2.2

人づくり・富づくりを加速するための重点的な取組（8つの政策の柱）

（1）命を守る安全な地域づくり

南海トラフ地震の防災対応に係る県ガイドライン策定、県土強靱化に向けた集中的取組

（2）安心して暮らせる医療・福祉の充実

社会健康医学研究の推進体制の充実、安心な長寿社会づくりに向けた介護人材の確保

（3）こどもが健やかに学び育つ社会の形成

特別支援学校の教育環境の充実、学力向上対策や技芸を磨く実学の奨励

（4）誰もが活躍できる社会の実現

（主な事業）

○ ふるさととつながる「ふじのくにパスポート」事業費（7百万円）

若者をターゲットに静岡の情報を継続的に発信し県内へのUターン就職を促進

○ ふじのくにICT人材育成事業費（82百万円）

AIやIoTなどの先端技術の急速な発展に対応するため、ICT人材の確保・育成を総合的に推進

（5）富をつくる産業の展開

（主な事業）

○ EV・自動運転化等技術革新対応促進事業費（300百万円）

世界的に進むEV化・自動運転等の急速な技術革新への対応に取り組む県内企業を支援

○ マリンバイオ産業振興事業費（235百万円）

マリンバイオテクノロジーを活用した革新的な技術開発と産業分野への応用を推進し、新たなビジネスを創出

○ 先端農業プロジェクト関連事業費（512百万円）

農業の生産性向上や関連産業のビジネス展開促進を図るため、革新的栽培法等の技術開発や、農業版オープンイノベーションプラットフォームの運営を支援

（6）多彩なライフスタイルの提案

“ふじのくに”のフロンティアを拓く取組による広域的な圏域づくり

（7）“ふじのくに”の魅力の向上と発信

ラグビーワールドカップ2019開催、東京2020オリンピック・パラリンピック成功への準備

（8）世界の人々との交流の拡大

世界クラスの資源・ビッグイベントを活かした海外誘客促進、受入環境の整備

II 静岡県主要経済指標の概況

需 要 面

1 個人消費

(1) 大型小売店販売額

1 月 = 34,284百万円

*前年同月比： 6.5%減

(県内3百貨店、135スーパー合計)

<概況>

1月の大型小売店販売額は34,284百万円で、前年同月比6.5%減となり、2か月ぶりに前年実績を下回った。

業態別にみると、百貨店（前年同月比3.5%減）が5か月連続、スーパー（同7.3%減）が2か月ぶりに前年実績を下回った。

商品別では、衣料品（前年同月比6.7%減）が7か月連続、身の回り品（同4.5%減）、飲食料品（同6.1%減）がいずれも2か月ぶり、家庭用品（同15.0%減）が16か月連続で前年実績を下回った。

なお、店舗数調整前の前年同月比は5.8%減と、2か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
販売額(百万円)	33,375	35,213	33,855	32,358	33,408	33,659	43,100	34,284
前年同月比(%)	▲0.1	▲1.1	0.0	3.0	▲0.8	▲2.3	0.6	▲6.5
うち百貨店(%)	2.1	▲7.5	1.9	▲0.2	▲1.6	▲1.4	▲2.8	▲3.5
スーパー(%)	▲0.6	0.6	▲0.4	3.8	▲0.6	▲2.6	1.6	▲7.3
(参考1)全国前年同月比(%)	1.5	▲1.6	▲0.1	0.4	▲0.8	▲2.1	▲1.0	▲3.3
うち百貨店(%)	4.0	▲5.1	0.6	▲2.6	1.1	▲1.1	▲1.3	▲3.3
スーパー(%)	0.3	0.3	▲0.4	1.7	▲1.8	▲2.6	▲0.8	▲3.4
(参考2)県前年同月比(店舗数調整前)	0.3	▲1.9	▲0.4	2.7	▲0.6	▲1.2	1.3	▲5.8

(注)販売額は店舗数未調整、前年同月比は店舗数調整済、全月速報値

<資料>経済産業省

<商品別前年同月比の推移>

(単位：%)

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
衣料品	0.4	▲7.8	▲1.5	▲0.7	▲7.0	▲5.8	▲2.1	▲6.7
うち紳士服・洋品	▲2.3	▲6.0	▲3.2	▲1.0	▲7.5	▲7.0	▲1.6	▲9.7
婦人・子供服・洋品	2.3	▲8.1	▲1.8	▲1.0	▲5.6	▲4.4	▲1.8	▲4.6
身の回り品	1.4	▲6.9	▲0.2	▲3.2	▲5.6	▲1.9	6.4	▲4.5
飲食料品	0.0	1.0	0.7	4.8	1.2	▲0.6	1.5	▲6.1
家庭用品	▲6.1	▲8.5	▲6.6	▲1.5	▲0.6	▲9.0	▲4.8	▲15.0
うち家庭用電気機械器具	17.5	6.7	▲1.4	10.8	8.4	▲6.7	0.7	▲1.5

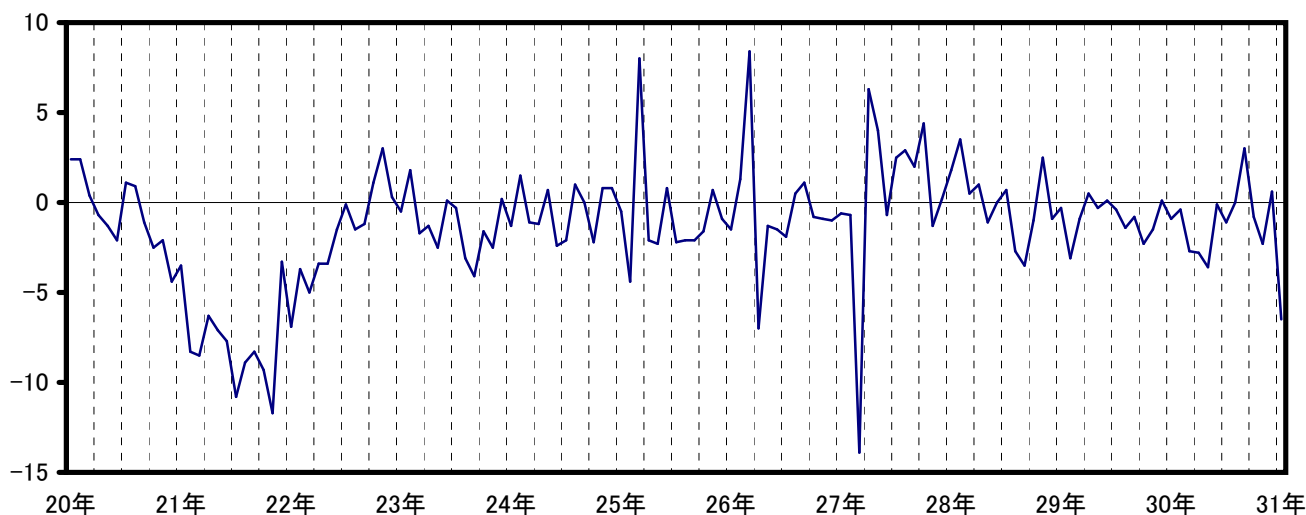
(注)店舗数調整済、全月速報値

<資料>経済産業省

<過去10年間の推移>

大型小売店販売額前年同月比(%)

<資料>経済産業省



(2) 専門量販店等販売額

1月 = 66,381百万円

*前年同月比： 2.6%増

(県内86家電大型専門店、1,701コンビニエンスストア、487ドラッグストア、105ホームセンター合計)

<概況>

1月の専門量販店等販売額は66,381百万円で、前年同月比 2.6%増となり、8か月連続で前年実績を上回った。

業態別にみると、家電大型専門店（前年同月比 0.5%減）、ホームセンター（同 1.1%減）がいずれも2か月ぶりに前年実績を下回ったものの、コンビニエンスストア（同 1.9%増）が3か月連続、ドラッグストア（同 6.3%増）が23か月連続で前年実績を上回った。

<最近の動き>

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
販売額(百万円)	66,747	76,838	72,146	66,765	67,010	65,321	78,121	66,381
前年同月比(%)	2.9	2.5	1.7	4.8	4.1	1.1	2.5	2.6
うち 家電大型専門店(%)	10.0	4.5	2.7	10.5	1.4	▲ 2.5	3.7	▲ 0.5
コンビニエンスストア(%)	0.9	0.6	1.0	3.6	▲ 0.1	0.8	2.1	1.9
ドラッグストア(%)	4.9	6.9	4.3	6.4	7.4	4.9	4.4	6.3
ホームセンター(%)	0.1	▲ 1.0	▲ 1.0	1.4	15.5	▲ 1.4	0.1	▲ 1.1
(参考)全国前年同月比(%)	3.6	1.5	1.6	4.6	2.0	1.2	3.0	2.2

(注1) 販売額、前年同月比は店舗数未調整

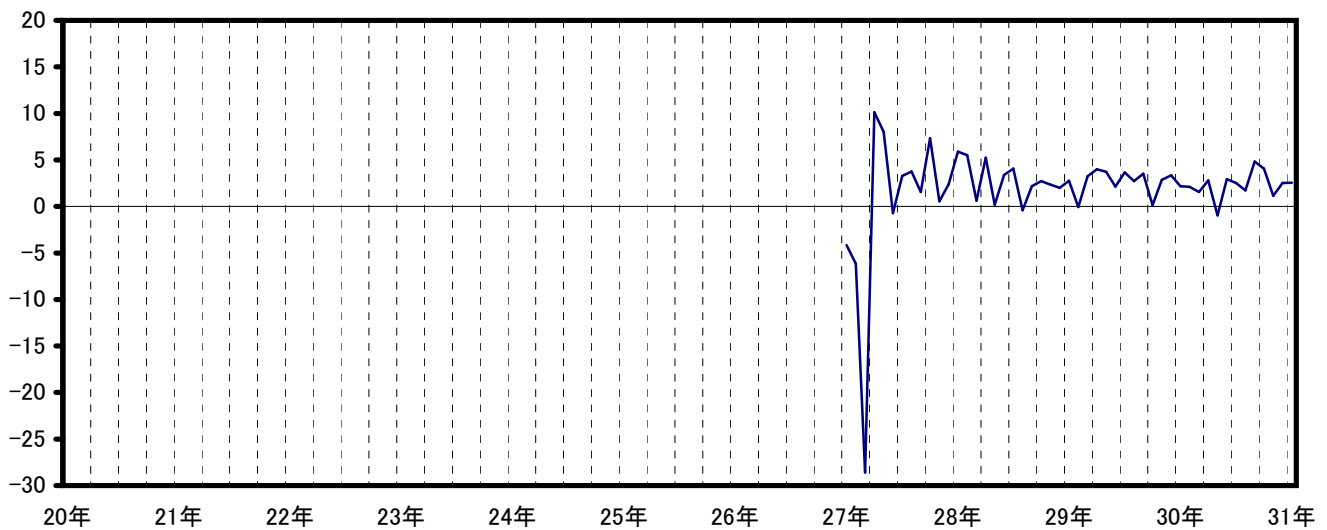
<資料>経済産業省

(注2) 平成28年7月からコンビニエンスストアの販売額を追加

<過去10年間の推移>

専門量販店等販売額前年同月比(%)

<資料>経済産業省



(3) 自動車(新車)新規登録台数

1月 = 15,664 台

*前年同月比： 2.0%増

(乗用車、軽自動車合計)

<概況>

1月の自動車(新車)新規登録台数は15,664台(前年同月比 2.0%増)と、4か月連続で前年実績を上回った。

車種別にみると、乗用車(前年同月比 3.2%増)が2か月ぶり、軽自動車(同 0.7%増)が4か月連続で前年実績を上回った。

<最近の動き>

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
登録台数(台)	15,629	14,618	12,013	16,766	14,092	14,723	13,208	15,664
前年同月比(%)	▲ 3.0	2.4	1.9	▲ 2.3	13.8	9.6	1.2	2.0
(参考)全国前年同月比(%)	▲ 5.3	3.3	4.0	▲ 3.3	11.6	7.4	▲ 3.2	0.9

<資料>県税務課、日本自動車販売協会連合会

<車種別(新車)新規登録台数前年同月比の推移>

(単位：%)

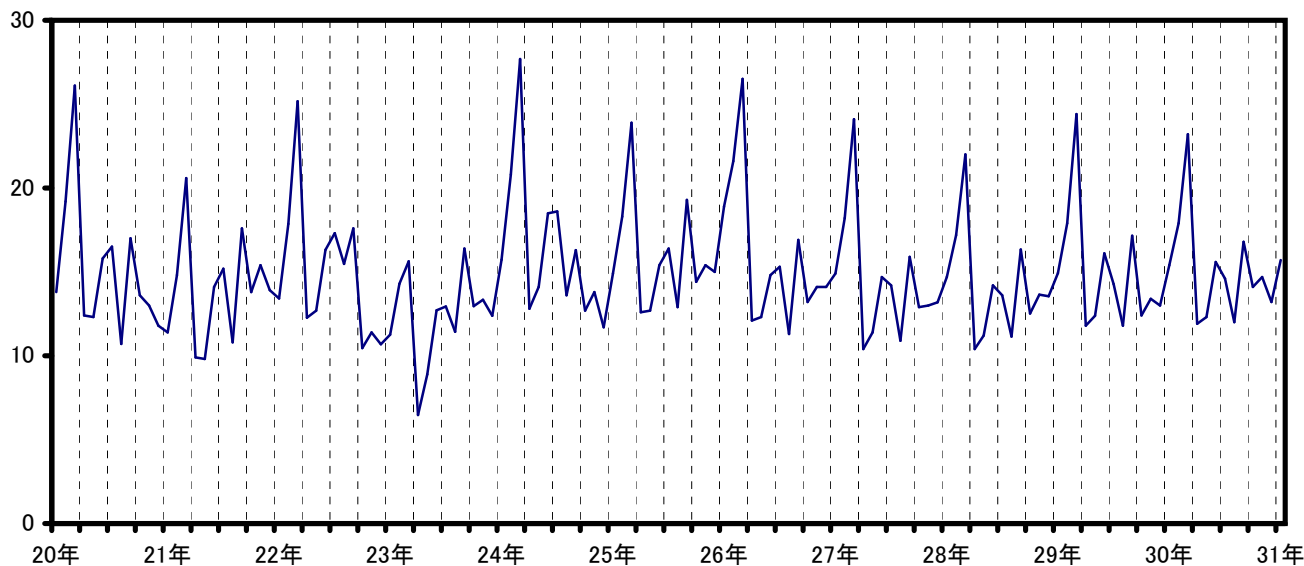
	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
全乗用車	▲ 3.0	2.4	1.9	▲ 2.3	13.8	9.6	1.2	2.0
乗用車	▲ 9.0	▲ 0.4	▲ 3.0	▲ 3.1	15.7	9.8	▲ 2.4	3.2
軽自動車	6.2	6.0	8.7	▲ 1.2	11.6	9.3	6.0	0.7

<資料>県税務課

<過去10年間の推移>

自動車(新車)新規登録台数(千台)

<資料>県税務課



(注)全国前年同月比は乗用車+軽乗用車

2 新設住宅着工戸数

1月 = 1,897 戸

*前年同月比： 19.9%減

<概況>

1月の新設住宅着工戸数は1,897戸で、前年同月比 19.9%減と、2か月連続で前年実績を下回った。

利用関係別にみると、持家（前年同月比 1.9%増）が5か月連続で前年実績を上回ったものの、貸家（同 11.8%減）が2か月連続、分譲住宅（同 61.1%減）が3か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

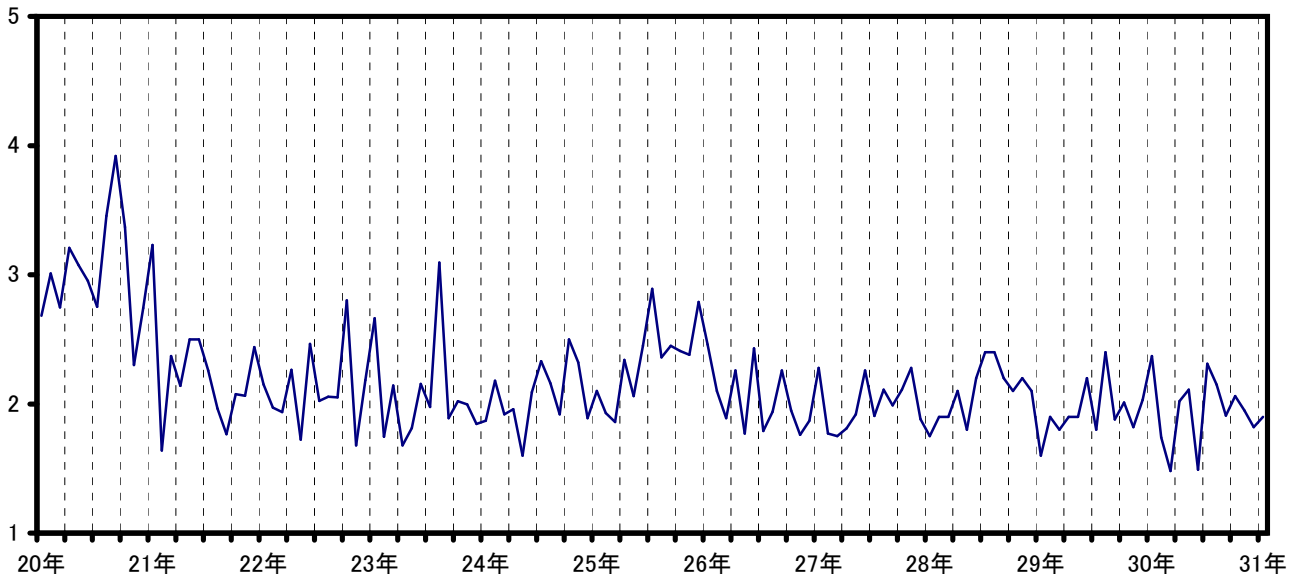
	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
戸数 (戸)	1,489	2,309	2,152	1,908	2,059	1,950	1,821	1,897
前年同月比 (%)	▲ 32.6	25.6	▲ 9.8	1.6	2.3	7.1	▲ 10.4	▲ 19.9
うち持家 (%)	▲ 25.4	4.1	▲ 1.9	4.7	8.3	3.7	2.7	1.9
貸家 (%)	▲ 46.7	70.1	▲ 26.8	▲ 10.2	▲ 7.5	19.2	▲ 25.3	▲ 11.8
分譲住宅 (%)	▲ 23.2	30.9	7.2	36.4	5.8	▲ 2.0	▲ 15.6	▲ 61.1
(参考)全国前年同月比 (%)	▲ 7.1	▲ 0.7	1.6	▲ 1.5	0.3	▲ 0.6	2.1	1.1

<資料>県住まいづくり課

<過去10年間の推移>

新設住宅着工戸数(千戸)

<資料>県住まいづくり課



3 公共工事請負金額

1月 = 9,431百万円

*前年同月比： 1.5%減

(建設保証会社保証実績)

<概況>

1月の公共工事の請負金額(工事場所ベース)は9,431百万円で、前年同月比1.5%減となり、4か月ぶりに前年実績を下回った。また、取扱い件数(工事場所ベース)は315件で、前年同月比14.6%減となり、4か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
金額(百万円)	30,461	29,729	28,357	41,187	23,847	14,829	22,329	9,431
前年同月比(%)	▲6.8	9.9	16.8	▲9.9	12.5	6.2	70.9	▲1.5
年度累計前年同月比(%)	13.7	12.9	13.5	8.3	8.7	8.6	11.8	11.3
件数(件)	707	872	857	1,185	738	690	719	315
前年同月比(%)	▲1.9	17.0	8.2	▲13.6	1.2	3.4	3.6	▲14.6
年度累計前年同月比(%)	10.3	12.4	11.4	3.9	3.6	3.5	3.5	2.6

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

<発注者別請負金額前年同月比の推移>

(単位:%)

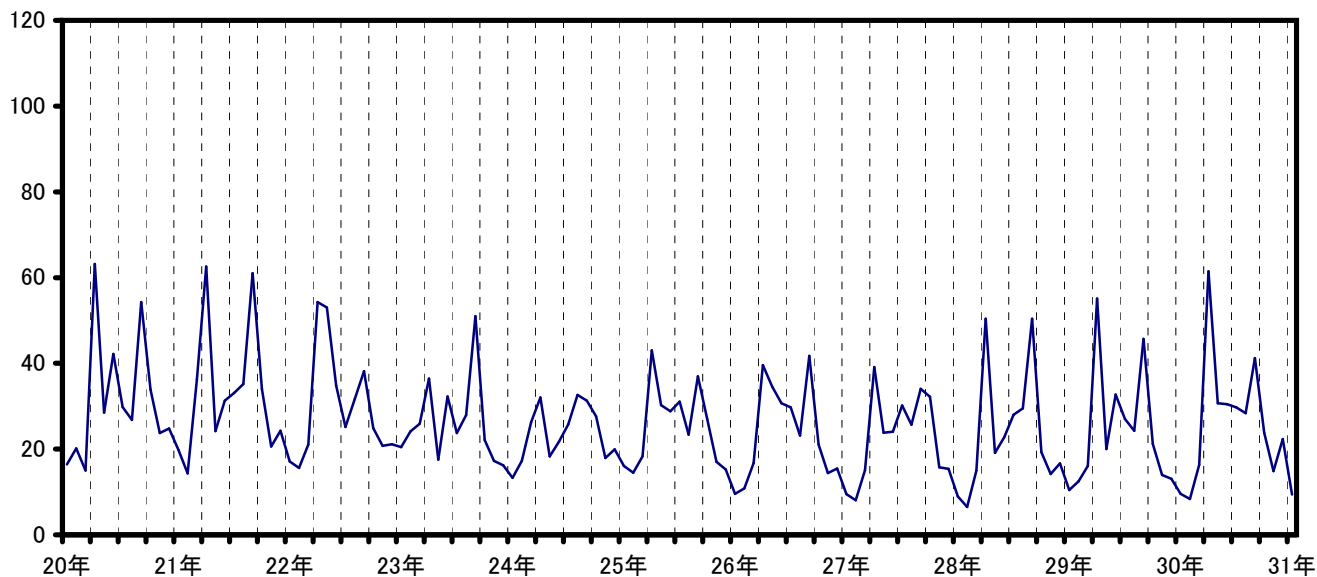
	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
国	113.4	129.5	▲0.8	▲54.8	▲25.9	▲29.2	8,054.0	130.2
独立行政法人等	▲65.3	488.7	▲35.1	238.5	424.5	164.3	▲4.1	▲4.8
県	4.3	45.6	20.6	▲12.0	2.4	▲12.1	18.4	▲62.0
市町	▲17.3	0.2	21.1	▲16.2	14.6	▲0.8	98.3	68.3
地方公社	—	▲95.2	▲91.5	▲32.1	290.5	467.9	912.0	▲98.3
その他	2.8	▲76.8	106.3	▲59.7	▲58.2	440.5	511.2	14.7

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

<過去10年間の推移>

公共工事請負金額(十億円)

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店



4 設備投資

<概況>

平成29年度の設備投資（含む土地投資）、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）は、いずれも製造業、非製造業、全産業の全てにおいて増加した。

平成30年度の設備投資（含む土地投資）は、製造業（前年度比 9.6%増）、非製造業（同 7.2%増）、全産業（同 8.5%増）の全てにおいて増加する計画となっている。また、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）は、製造業（前年度比 11.7%増）、非製造業（同 8.1%増）、全産業（同 10.8%増）の全てにおいて増加する計画となっている。

1月の着工建築物床面積（非居住用）は68,477㎡で、前年同月比 21.0%減となり、2か月ぶりに前年実績を下回った。

<企業短期経済観測調査結果>（前年度比% 設備投資（含む土地投資）

		29年度 (実績)	30年度 (計画)
全産業	県	2.8	(▲3.3) 8.5
	全国	4.4	(1.7) 10.4
製造業	県	3.2	(▲3.5) 9.6
	全国	6.3	(▲0.9) 15.4
非製造業	県	2.3	(▲3.0) 7.2
	全国	3.4	(3.3) 7.5

（ ）内は前回調査比修正率 ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）

		29年度 (実績)	30年度 (計画)
全産業	県	5.3	(▲2.2) 10.8
	全国	4.6	(0.3) 9.6
製造業	県	6.8	(▲2.2) 11.7
	全国	4.4	(▲0.6) 10.3
非製造業	県	1.4	(▲2.2) 8.1
	全国	4.8	(1.3) 8.8

（注1）平成29年3月調査分から半期計数の掲載を取り止め、年度計数のみを掲載

（注2）平成29年3月調査分から「ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）」を追加

<資料>日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果(平成30年12月調査)」

日本銀行調査統計局「全国企業短期経済観測調査」(平成30年12月調査)」

<最近の動き>

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
着工建築物床面積（非居住用）（㎡）	136,094	284,663	153,769	236,654	115,833	87,374	212,110	68,477
前年同月比（%）	▲ 22.8	142.5	17.2	187.3	▲ 1.5	▲ 9.6	94.6	▲ 21.0
(参考) 全国前年同月比（%）	▲ 5.0	8.8	▲ 10.9	▲ 7.3	▲ 3.2	▲ 7.0	15.3	1.0

（注3）着工建築物床面積は公共と民間の合計のうち、非居住用

<資料>国土交通省

<参考 県内企業の業況判断D. I. >

	30年9月	30年12月	31年3月 (予測)
全産業	14	14	10
製造業	20	14	9
非製造業	9	14	11
(参考) 全国・全産業	15	16	10

（注4）業況判断D. I. : 「良い」-「悪い」回答社数構成比%ポイント

<資料> 日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果(平成30年12月調査)」

5 輸出

1 月 = 151,077百万円

*前年同月比： 4.0%減

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

1月の清水税関支署管内の輸出総額は151,077百万円で、前年同月比 4.0%減となり、6か月ぶりに前年実績を下回った。

主要な品目別にみると、自動車（前年同月比 165.9%増）が2か月連続で前年実績を上回ったものの、原動機（同 0.9%減）が8か月ぶり、エアコン（同 5.0%減）が2か月ぶり、自動車の部分品（同 13.2%減）が4か月連続、二輪自動車類（同 8.6%減）が12か月連続、科学光学機器（同 17.6%減）が7か月連続で前年実績を下回った。

地域別にみると、EU向け（前年同月比 20.0%増）が2か月連続で前年実績を上回ったものの、アジア向け（同 12.2%減）が3か月連続、米国向け（同 4.3%減）が6か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
輸出総額(百万円)	193,158	182,834	174,267	192,397	186,630	180,100	211,170	151,077
前年同月比(%)	10.4	▲ 1.1	1.7	9.3	0.6	0.7	6.0	▲ 4.0

<資料>清水税関支署

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
原 動 機	6.0	1.0	11.8	29.1	38.9	21.1	15.9	▲ 0.9
エ ア コ ン	32.1	12.6	10.4	2.2	▲ 20.4	▲ 8.1	16.6	▲ 5.0
自 動 車	8.0	▲ 19.3	▲ 23.3	33.3	▲ 25.8	▲ 11.6	10.0	165.9
自 動 車 の 部 分 品	11.6	7.7	0.0	12.1	▲ 2.8	▲ 9.6	▲ 4.9	▲ 13.2
二 輪 自 動 車 類	▲ 12.6	▲ 20.4	▲ 27.8	▲ 19.2	▲ 17.9	▲ 7.8	▲ 0.5	▲ 8.6
科 学 光 学 機 器	10.8	▲ 4.2	▲ 18.9	▲ 14.8	▲ 5.4	▲ 10.8	▲ 30.7	▲ 17.6

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
ア ジ ア	18.5	7.6	2.8	9.1	2.8	▲ 0.3	▲ 2.8	▲ 12.2
米 国	9.2	▲ 8.2	14.7	2.5	18.7	11.0	2.4	▲ 4.3
E U	▲ 16.0	▲ 13.8	▲ 15.8	25.0	▲ 20.0	▲ 7.4	17.6	20.0

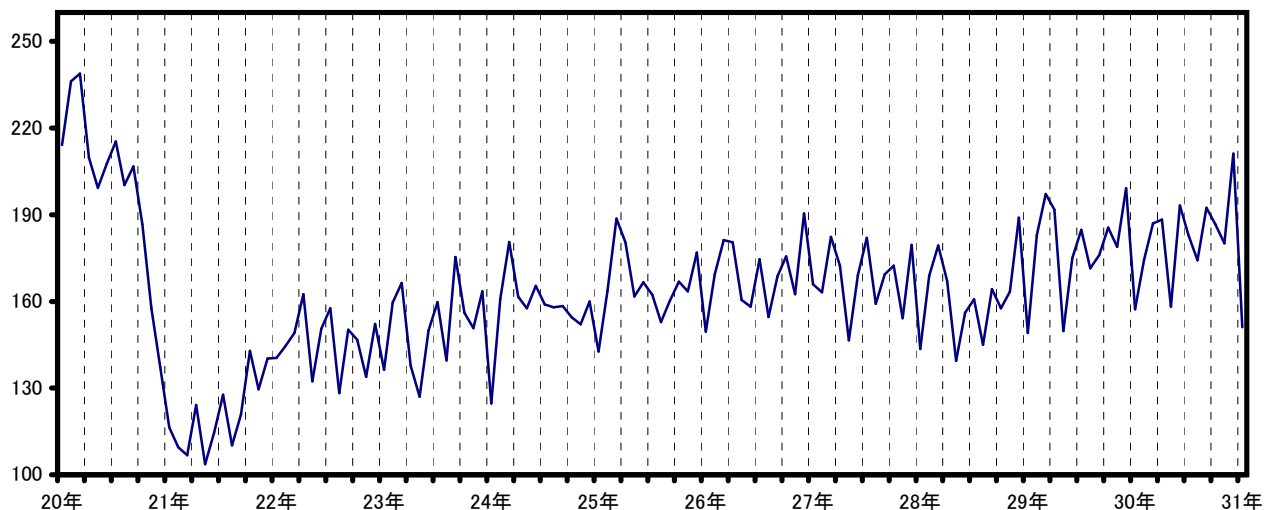
<資料>清水税関支署

(注) 管内とは、清水港(焼津、沼津、浜松、興津の各出張所及び下田監視所含む)、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4つをいう。
なお、数値は、通関手続きが行われた金額である。輸入も同様。

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸出額(十億円)

<資料>清水税関支署



6 輸入

1月 = 104,387百万円

*前年同月比： 16.3%増

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

1月の清水税関支署管内の輸入総額は104,387百万円で、前年同月比 16.3%増となり、10か月連続で前年実績を上回った。

主要な品目別にみると、魚介類及び同調製品（前年同月比 7.3%減）が2か月ぶり、自動車の部分品（同 6.0%減）が10か月ぶりに前年実績を下回ったものの、木材（同 8.7%増）が3か月ぶり、パルプ（同 37.5%増）、原動機（同 87.9%増）がいずれも2か月ぶり、紙類及び同製品（同 37.1%増）が2か月連続で前年実績を上回った。

地域別では、EUから（前年同月比 14.0%減）が3か月連続で前年実績を下回ったものの、アジアから（同 11.0%増）が4か月連続、米国から（同 16.4%増）が2か月ぶりに前年実績を上回った。

<最近の動き>

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
輸入総額(百万円)	87,832	96,108	89,368	84,671	105,003	97,053	100,847	104,387
前年同月比(%)	4.9	17.0	4.6	1.2	43.2	8.3	13.1	16.3

<資料>清水税関支署

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
魚介類及び同調製品	2.9	▲ 5.8	▲ 8.4	▲ 15.5	35.3	▲ 21.6	4.3	▲ 7.3
木材	▲ 1.7	23.4	▲ 6.0	▲ 21.5	2.3	▲ 26.4	▲ 12.0	8.7
パルプ	8.3	47.4	6.5	▲ 24.0	81.0	13.8	▲ 27.5	37.5
紙類及び同製品	35.3	▲ 5.4	▲ 19.3	9.4	5.2	▲ 18.6	8.8	37.1
原動機	8.7	3.5	51.7	▲ 21.0	40.0	53.9	▲ 1.2	87.9
自動車の部分品	24.6	48.9	13.9	33.2	30.7	44.4	61.6	▲ 6.0

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

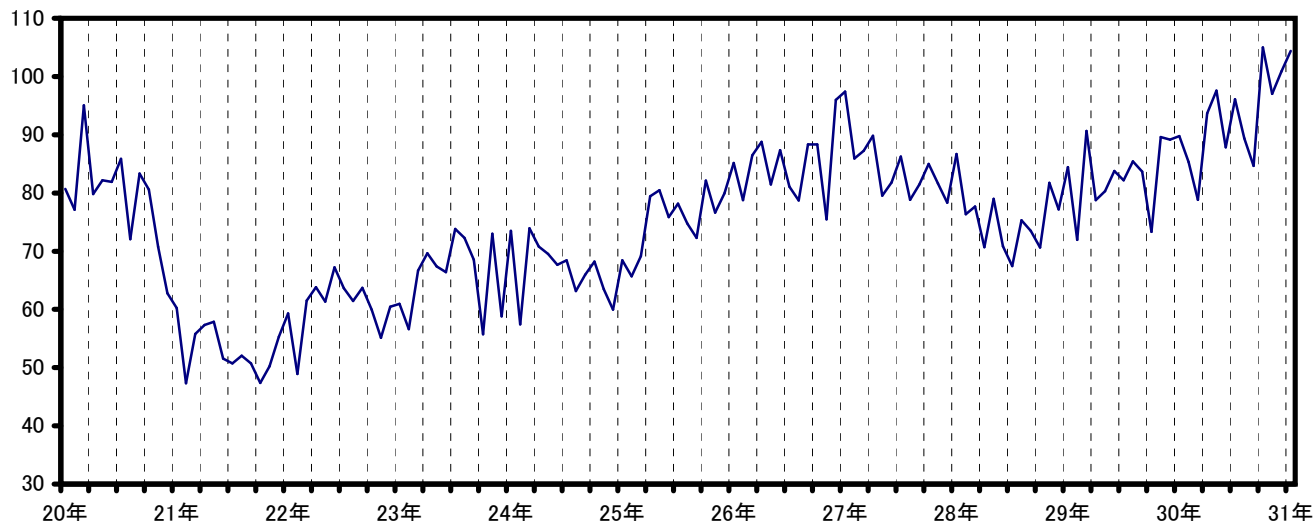
	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
アジア	1.9	19.9	8.7	▲ 5.7	35.1	25.7	9.3	11.0
米国	▲ 6.7	8.4	21.8	▲ 19.9	▲ 13.8	2.4	▲ 2.8	16.4
EU	▲ 1.5	3.9	14.2	2.0	55.9	▲ 5.2	▲ 7.4	▲ 14.0

<資料>清水税関支署

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸入額(十億円)

<資料>清水税関支署



生 産 面

1 生 産

(1) 鉱工業生産指数

12月 = 96.2

(平成22年=100、鉱工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 0.8%増

*前年同月比(原指数) : 0.1%増

<概況>

12月の鉱工業生産指数(総合)は96.2(季節調整済指数)で、前月比0.8%増と、2か月ぶりに上昇した。また、前年同月比(原指数)は0.1%増と、3か月連続で前年水準を上回った。業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比7.0%減)が14か月連続、化学(同1.9%減)、パルプ・紙・紙加工品(同4.7%減)がいずれも3か月ぶりに前年水準を下回ったものの、電気機械(同3.8%増)が6か月連続、輸送機械(同1.0%増)、食料品・たばこ(同3.8%増)がいずれも4か月連続で前年水準を上回った。

<最近の動き>

	30年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
指数	91.8	92.9	93.1	94.4	96.0	97.0	95.4	96.2
前月比(%)	▲1.1	1.2	0.2	1.4	1.7	1.0	▲1.6	0.8
前年同月比(%)	0.0	▲1.9	2.4	1.1	0.0	3.5	3.0	0.1
(参考)全国前年同月比(%)	4.2	▲1.2	2.3	0.6	▲2.9	4.2	1.4	▲1.9

(注)平成22年=100、鉱工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

<県内業種別鉱工業生産指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	30年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
はん用・生産用・業務用機械工業	▲13.2	▲11.0	▲11.0	▲4.2	▲1.1	▲12.9	▲5.6	▲7.0
電気機械工業	▲3.1	▲7.8	5.0	6.2	6.8	18.3	5.6	3.8
輸送機械工業	0.8	3.2	6.8	▲2.8	0.4	2.1	3.5	1.0
化学工業	9.1	▲2.3	4.6	9.0	▲2.9	6.6	7.9	▲1.9
パルプ・紙・紙加工品工業	0.5	▲1.3	1.3	0.1	▲0.1	0.1	2.2	▲4.7
食料品・たばこ工業	▲4.2	▲0.4	▲2.7	▲3.3	1.6	6.8	5.5	3.8

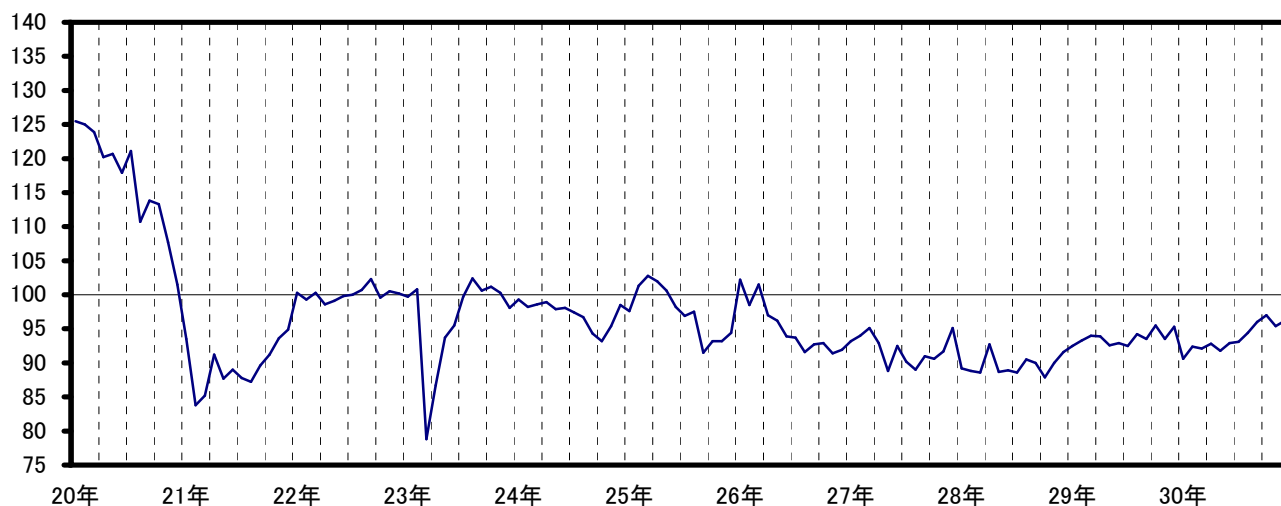
(注)平成22年=100、鉱工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

鉱工業生産指数(総合、平成22年=100)

<資料>県統計調査課



(2) 鋳工業在庫指数

12月 = 126.9

(平成22年=100、鋳工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 4.6%増

*前年同月比(原指数) : 9.4%増

<概況>

12月の鋳工業在庫指数(総合)は126.9(季節調整済指数)で、前月比は4.6%増と、3か月ぶりに上昇した。また、前年同月比(原指数)は9.4%増と、15か月連続で前年水準を上回った。

なお、在庫動向を在庫循環図でみると、今期は「在庫積み上がり局面(景気後退初期)」に該当する。

業種別にみると、輸送機械(前年同月比10.7%減)が3か月連続、パルプ・紙・紙加工品(同12.6%減)が18か月連続で前年水準を下回ったものの、はん用・生産用・業務用機械(同3.1%増)が2か月ぶり、電気機械(同3.6%増)、食料品・たばこ(同4.4%増)がいずれも3か月連続、化学(同51.6%増)が19か月連続で前年水準を上回った。

<最近の動き>

	30年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
指数	126.1	123.7	122.7	124.9	128.7	124.6	121.3	126.9
前月比(%)	1.9	▲1.9	▲0.8	1.8	3.0	▲3.2	▲2.6	4.6
前年同月比(%)	10.2	6.1	7.5	9.6	13.8	6.4	4.5	9.4
(参考)全国前年同月比(%)	2.5	2.5	2.8	2.9	5.5	▲0.8	0.7	1.3

(注)平成22年=100、鋳工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

<県内業種別鋳工業在庫指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	30年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
はん用・生産用・業務用機械工業	7.1	0.8	8.9	10.2	6.9	9.1	▲7.2	3.1
電気機械工業	▲1.4	▲14.0	▲10.7	▲12.8	▲2.9	1.7	2.3	3.6
輸送機械工業	▲11.6	▲26.8	▲18.4	▲12.7	9.1	▲10.5	▲8.9	▲10.7
化学工業	60.5	49.3	41.7	44.9	50.8	34.3	29.7	51.6
パルプ・紙・紙加工品工業	▲9.9	▲8.5	▲6.9	▲4.8	▲1.3	▲8.7	▲8.1	▲12.6
食料品・たばこ工業	0.4	▲7.5	▲5.8	▲1.0	▲3.0	1.1	4.5	4.4

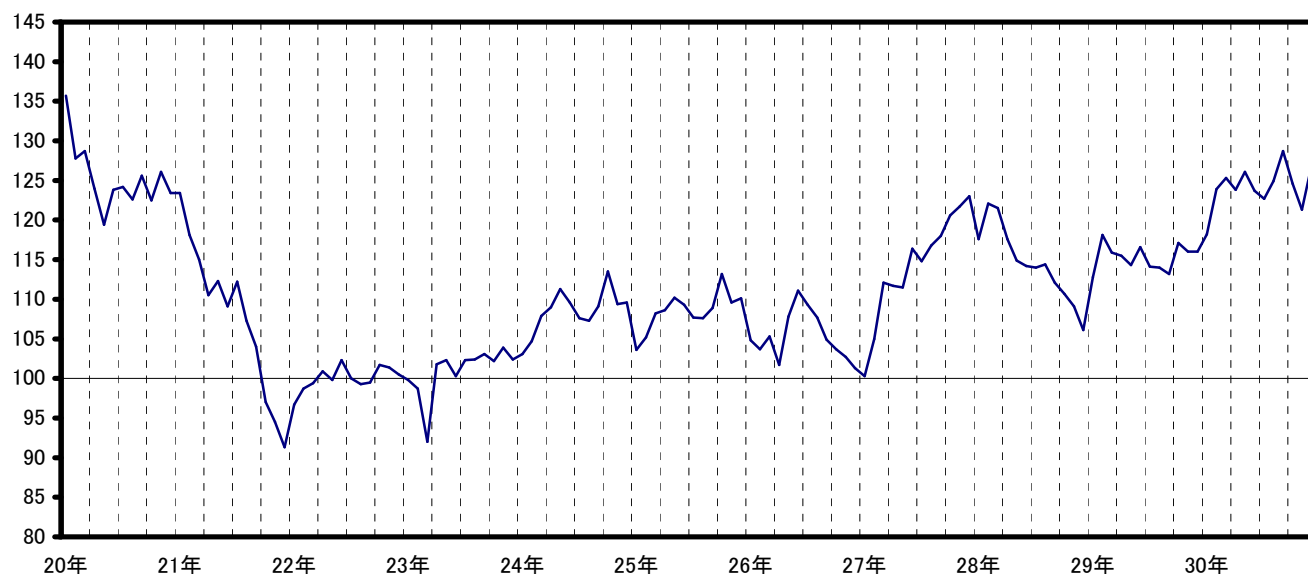
(注)平成22年=100、鋳工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

鋳工業在庫指数(総合、平成22年=100)

<資料>県統計調査課



雇 用 面

1 雇 用

(1) 有効求人倍率

1 月 = 1.69倍

*前月比（季節調整値）： 0.03ポイント増

（季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む）

<概 況>

1月の有効求人倍率（季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む）は1.69倍となり、前月を0.03ポイント上回った。また、23か月連続で全国値を上回った。新規求人（学卒、パートタイムを除く）（前年同月比 3.1%減）は5か月連続で前年実績を下回った。

産業別にみると、運輸業・郵便業（前年同月比 3.4%増）が2か月ぶり、サービス業（他に分類されないもの）（同 11.4%増）が5か月ぶりに前年実績を上回ったものの、建設業（同 10.0%減）が6か月連続、製造業（同 5.8%減）が2か月連続、情報通信業（同 45.5%減）が5か月連続、卸売業・小売業（同 11.1%減）が2か月ぶり、医療・福祉（同 12.1%減）が8か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

（単位：倍）

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
県	1.70	1.71	1.69	1.69	1.66	1.66	1.66	1.69
全 国	1.61	1.62	1.63	1.63	1.62	1.63	1.63	1.63

（注）季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む

<資料>厚生労働省

<産業別新規求人前年同月比の推移>

（単位：%）

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
建 設 業	3.9	6.6	▲ 1.7	▲ 10.4	▲ 8.5	▲ 1.2	▲ 12.1	▲ 10.0
製 造 業	0.3	11.8	17.1	▲ 4.8	16.7	10.5	▲ 9.8	▲ 5.8
情 報 通 信 業	24.4	▲ 1.5	2.9	▲ 11.4	▲ 31.1	▲ 3.7	▲ 8.7	▲ 45.5
運 輸 業 ・ 郵 便 業	22.9	16.2	10.7	▲ 3.5	6.5	17.1	▲ 8.8	3.4
卸 売 業 ・ 小 売 業	1.2	▲ 7.5	0.9	▲ 9.1	▲ 11.4	▲ 14.1	19.3	▲ 11.1
医 療 ・ 福 祉	▲ 3.8	▲ 3.3	▲ 4.2	▲ 2.9	▲ 10.1	▲ 4.4	▲ 0.6	▲ 12.1
サービス業（他に分類されないもの）	1.4	21.4	5.1	▲ 18.1	▲ 4.5	▲ 1.4	▲ 26.1	11.4
合 計	3.9	6.6	4.6	▲ 9.1	▲ 1.3	▲ 0.2	▲ 6.9	▲ 3.1

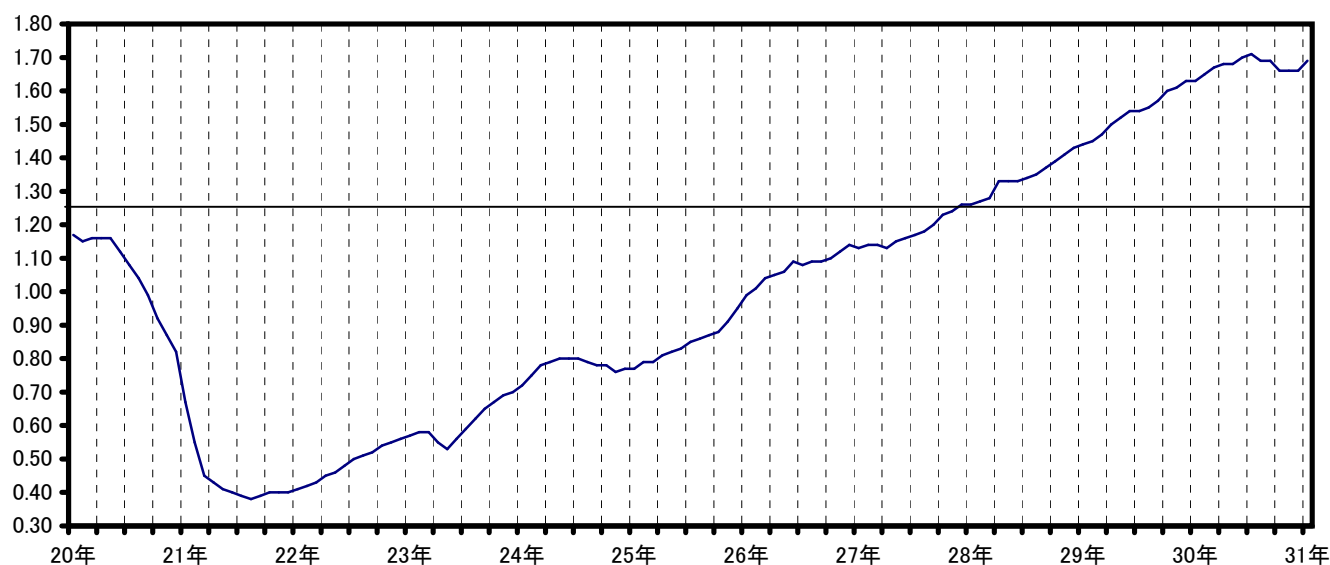
（注）学卒、パートタイムを除く

<資料>厚生労働省

<過去10年間の推移>

有効求人倍率（学卒を除き、パートタイムを含む）（倍）

<資料>厚生労働省



(2) 雇用保険受給者実人員

1月 = 9,922人

*前月比: 3.6%増

*前年同月比: 2.3%減

<概況>

1月の雇用保険受給者実人員は9,922人で、前月比は3.6%増と、3か月ぶりに前月を上回った。また、前年同月比は2.3%減と66か月連続で前年実績を下回った。

完全失業率(全国)は2.5%で、前月から0.1ポイント悪化した。

静岡県(平成30年10~12月)の完全失業率は1.8%で、前期(30年7~9月)から0.2ポイント改善した。

<最近の動き>

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
実人員(人)	10,513	10,974	11,407	10,605	10,885	10,196	9,577	9,922
前月比(%)	▲3.0	4.4	3.9	▲7.0	2.6	▲6.3	▲6.1	3.6
前年同月比(%)	▲4.6	▲1.1	▲3.7	▲5.6	▲2.0	▲6.0	▲6.8	▲2.3
(参考)全国前年同月比(%)	▲5.2	▲0.3	▲2.3	▲1.6	0.8	▲1.0	▲0.7	1.4

<資料>厚生労働省

<参考 完全失業率(全国)の推移>

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
完全失業率(全国)(%)	2.4	2.5	2.4	2.3	2.4	2.5	2.4	2.5

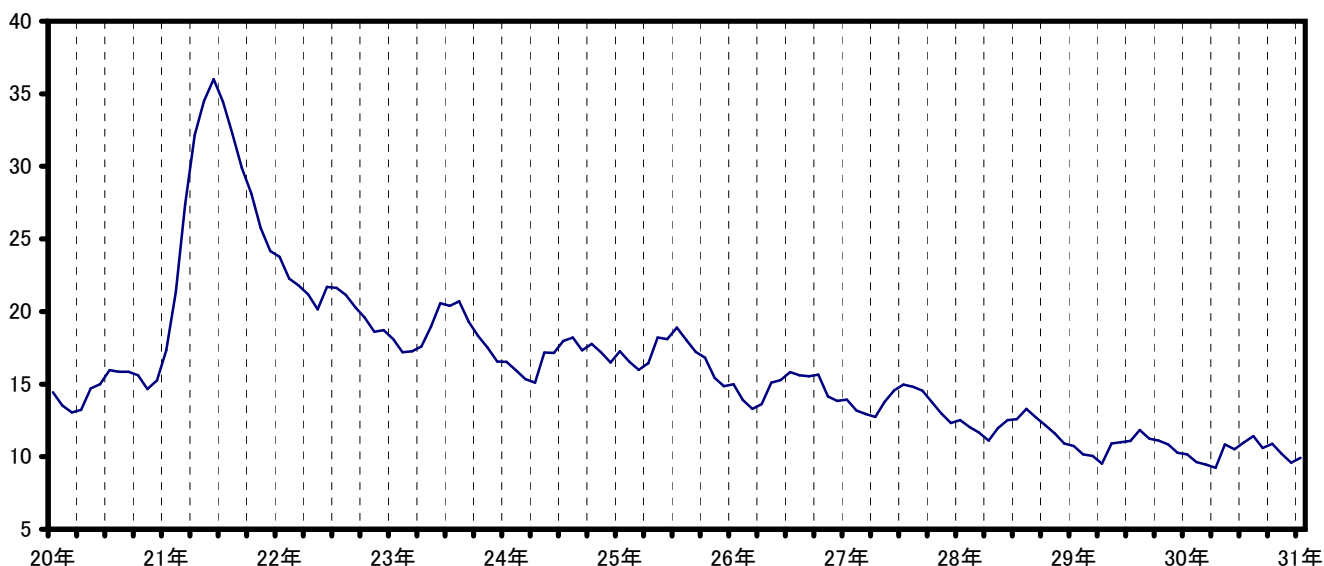
(注)季節調整値

<資料>総務省統計局

<過去10年間の推移>

雇用保険受給者実人員(千人)

<資料>厚生労働省



(3) 所定外労働時間指数

12月 = 91.5

*前月比(季節調整済指数): 6.0%減

(平成27年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、季節調整済) *前年同月比(原指数) : 8.7%減

<概況>

12月の所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、調査産業計)は91.5(季節調整済指数)で、前月比6.0%減となった。また、前年同月比(原指数)は8.7%減と13か月連続で前年実績を下回った。

業種別にみると、情報通信業(前年同月比71.4%増)が14か月連続、卸売業・小売業(同11.7%増)が2か月連続、その他のサービス業(同4.2%増)が2か月ぶりに前年実績を上回ったものの、建設業(同49.0%減)が7か月連続、製造業(同3.6%減)が2か月連続、運輸業・郵便業(同2.7%減)、医療・福祉(同11.7%減)が2か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

	30年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
指数	97.1	93.9	97.8	98.0	91.1	96.4	97.3	91.5
前月比(%)	5.5	▲3.3	4.2	0.2	▲7.0	5.8	0.9	▲6.0
前年同月比(%)	▲6.2	▲9.9	▲5.5	▲3.8	▲13.4	▲7.3	▲7.7	▲8.7
(参考)全国前年同月比(%)	0.8	0.8	0.0	▲1.6	▲2.4	0.8	▲0.7	▲3.0

*平成27年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、指数:季節調整済指数、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<県内業種別所定外労働時間指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	30年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
建設業	284.8	▲44.5	▲33.8	▲53.1	▲62.4	▲44.6	▲52.6	▲49.0
製造業	▲7.9	▲0.5	3.2	▲1.7	▲7.0	1.6	▲3.3	▲3.6
情報通信業	83.7	86.6	75.2	105.0	85.7	105.8	88.8	71.4
運輸業・郵便業	▲10.7	▲10.1	▲11.0	▲7.7	▲10.1	▲10.5	1.5	▲2.7
卸売業・小売業	▲7.1	▲10.9	9.2	4.4	6.4	▲2.6	21.0	11.7
医療・福祉	▲26.2	1.6	▲15.9	▲1.4	▲20.4	▲16.1	2.8	▲11.7
その他のサービス業	15.1	20.0	8.0	10.1	6.8	7.4	▲2.4	4.2
調査産業計	▲6.2	▲9.9	▲5.5	▲3.8	▲13.4	▲7.3	▲7.7	▲8.7

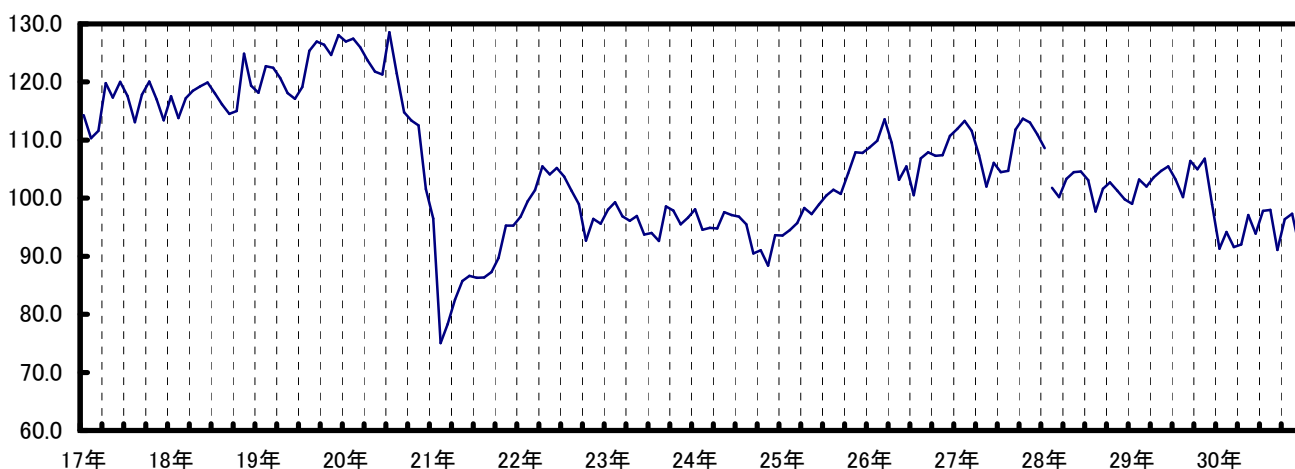
*平成27年=100、事業所規模30人以上、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、平成27年=100)

<資料>県統計調査課



そ の 他

1 物 価

国内企業物価指数

2 月 = 101.1

(平成27年=100)

*前 月 比: 0.2%上昇

*前年同月比: 0.8%上昇

<概 況>

2月の国内企業物価指数は101.1となり、前月比は0.2%の上昇となった。また、前年同月比は0.8%の上昇となった。

<最近の動き>

	30年7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月
国内企業物価指数	101.8	101.8	102.0	102.4	102.1	101.5	100.9	101.1
前 月 比 (%)	0.5	0.0	0.2	0.4	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 0.6	0.2
前年同月比 (%)	3.1	3.1	3.0	3.0	2.3	1.5	0.6	0.8

*平成27年=100

<資料>日本銀行

2 金 融

(1) 県内金融機関貸出残高

1 月 = 137,565億円

(銀行、信用金庫)

*前 月 比: 0.9%減

*前年同月比: 1.5%減

<概 況>

1月末の県内の銀行と信用金庫の貸出残高は137,565億円で、前月比は0.9%の減少となった。また、前年同月比は1.5%の減少となった。

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
貸出残高(億円)	139,354	138,340	138,099	138,887	137,361	137,406	138,841	137,565
前 月 比 (%)	0.5	▲ 0.7	▲ 0.2	0.6	▲ 1.1	0.0	1.0	▲ 0.9
前年同月比 (%)	0.1	▲ 0.7	▲ 0.8	▲ 1.5	▲ 1.4	▲ 1.6	▲ 1.9	▲ 1.5

<資料>日本銀行静岡支店

(2) 貸出約定金利

1 月 = 1.920%

(県内地銀4行総平均)

*前 月 差: 0.005ポイント減

*前年同月差: 0.186ポイント減

<概 況>

1月の県内地銀4行総平均の貸出約定金利(総合)は1.920%で、前月から0.005ポイントのマイナスとなった。なお、前年同月差は0.186ポイントのマイナスとなった。

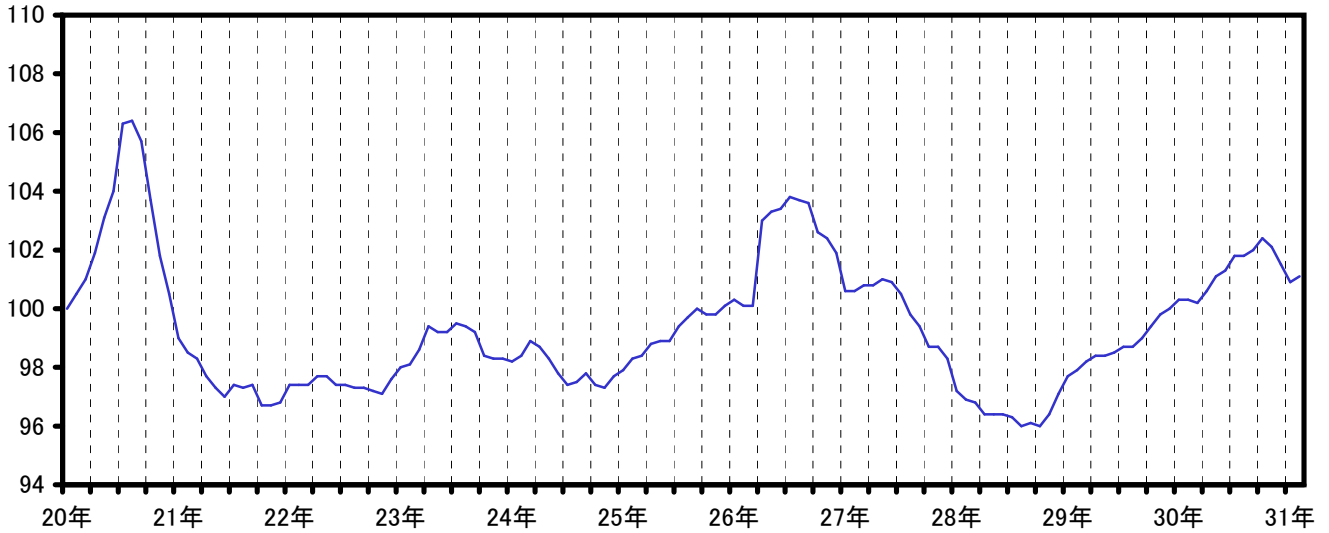
	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
貸出約定金利(%)	2.022	2.018	1.999	1.977	1.970	1.952	1.925	1.920
前月差(ポイント)	▲ 0.026	▲ 0.004	▲ 0.019	▲ 0.022	▲ 0.007	▲ 0.018	▲ 0.027	▲ 0.005
前年同月差(ポイント)	▲ 0.101	▲ 0.102	▲ 0.123	▲ 0.134	▲ 0.153	▲ 0.165	▲ 0.173	▲ 0.186

<資料>日本銀行静岡支店

<過去10年間の推移>

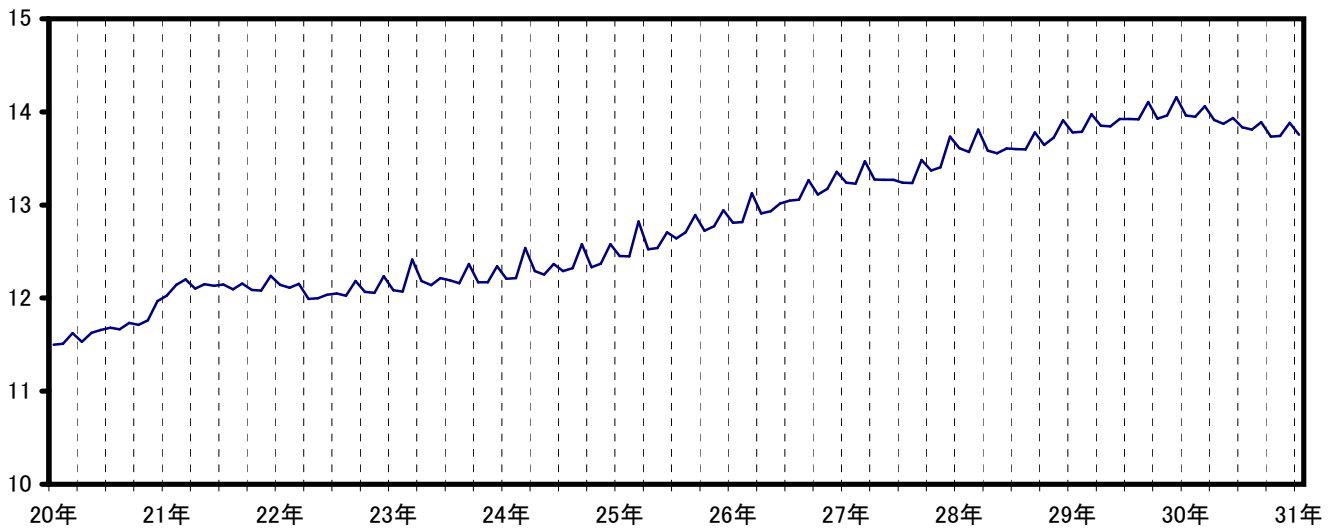
国内企業物価指数(平成27年=100)

<資料>日本銀行



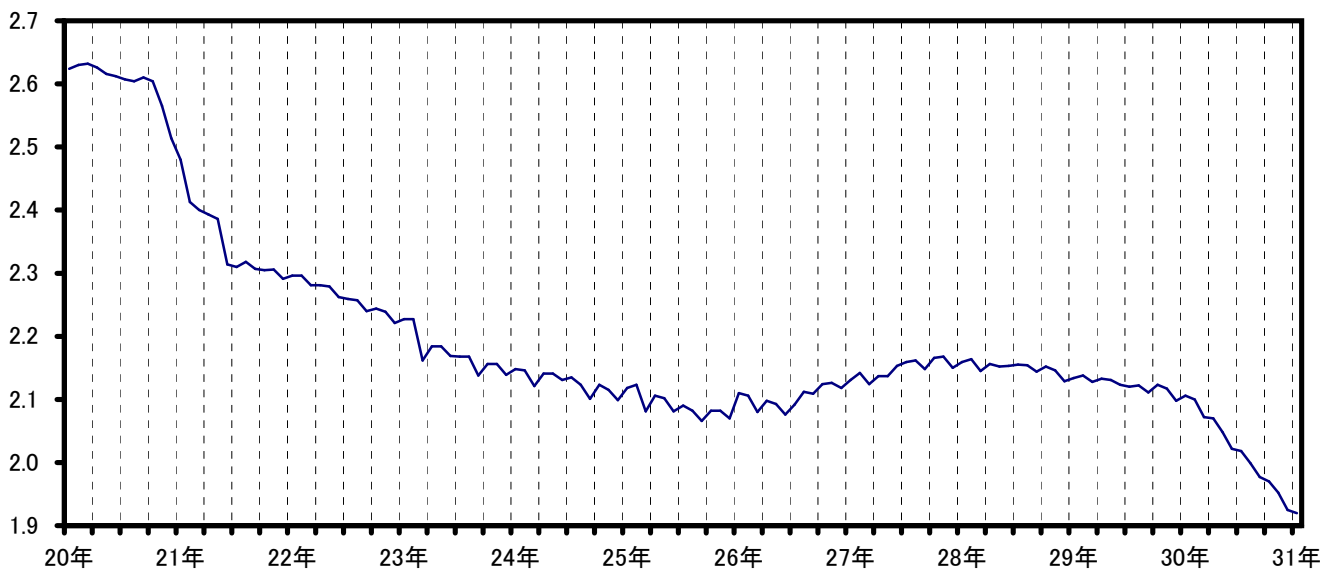
県内金融機関貸出残高(兆円)

<資料>日本銀行静岡支店



県内地銀平均貸出約定金利(%)

<資料>日本銀行静岡支店



(3) 信用保証協会保証金額**1 月 = 12,720百万円**

*前年同月比： 6.7%減

<概況>

1月の保証承諾は、金額は12,720百万円（前年同月比 6.7%減）、件数は1,340件（同 9.8%減）と、いずれも3か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	30年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
保証金額(百万円)	18,336	19,024	19,715	18,648	16,121	17,768	19,565	12,720
前年同月比(%)	▲4.9	9.3	8.7	▲3.5	1.5	▲12.0	▲16.3	▲6.7
保証件数(件)	1,958	1,920	1,989	1,859	1,692	1,744	1,889	1,340
前年同月比(%)	▲1.4	10.5	2.9	▲7.5	3.5	▲9.6	▲18.5	▲9.8

<資料>県信用保証協会

(4) 円相場**2月 = 110.36円/ドル**

*前月差： 1.41円安

(東京・銀行間直物中心・平均)

*前年同月差： 2.54円安

<概況>

2月の東京外国為替市場での対ドル平均円相場（銀行間直物）は110.36円で、前月と比べて1.41円の円安となり、3か月ぶりの円安となった。

<最近の動き>

	30年7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月
平均相場(円)	111.37	111.06	111.89	112.78	113.37	112.45	108.95	110.36
前月差(円)	1.34	▲0.31	0.83	0.89	0.59	▲0.92	▲3.50	1.41
前年同月差(円)	▲1.07	1.15	1.21	▲0.18	0.45	▲0.52	▲1.82	2.54

▲…円高

(注)東京外国為替相場・銀行間直物中心相場・平均

3 企業経営**企業倒産件数****2月 = 12件**

*前年同月比： 45.4%減

<概況>

2月の負債総額 1,000万円以上の企業倒産は、件数は12件（前年同月比 45.4%減）、負債総額は1,495百万円（同 44.3%減）と、いずれも前年実績を下回った。

原因別にみると、販売不振を原因とするいわゆる「不況型倒産」が9件と全体の75.0%を占め、255か月連続して50%以上となっている。

<最近の動き>

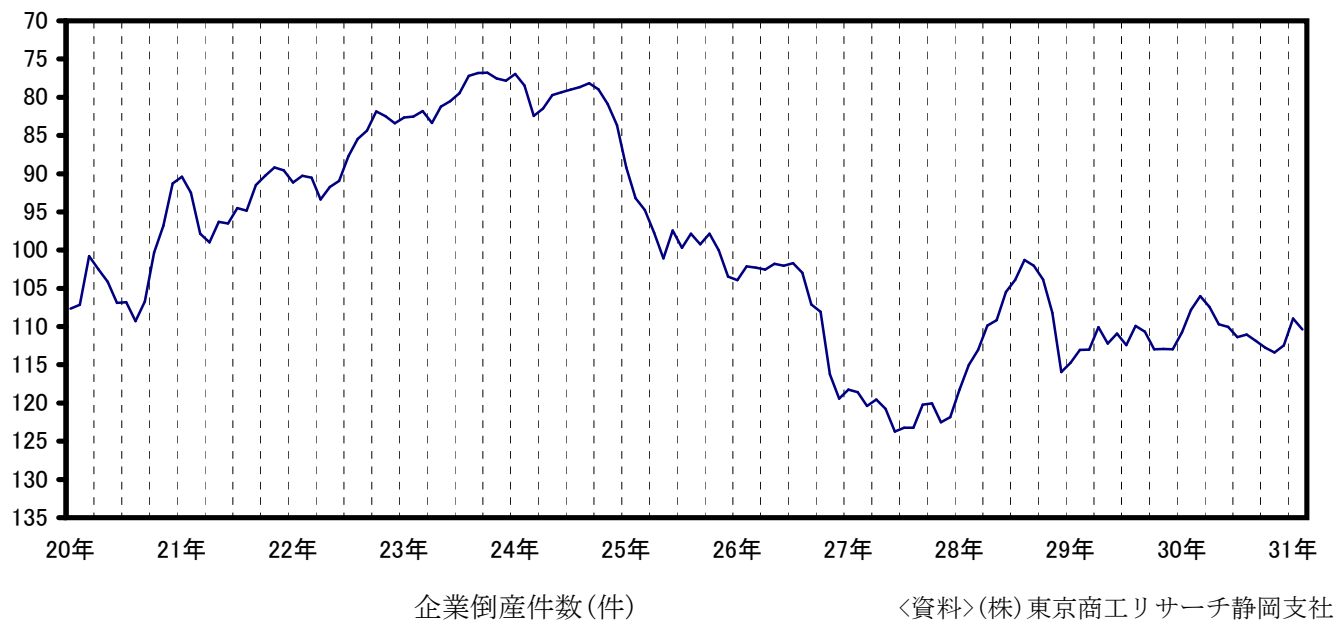
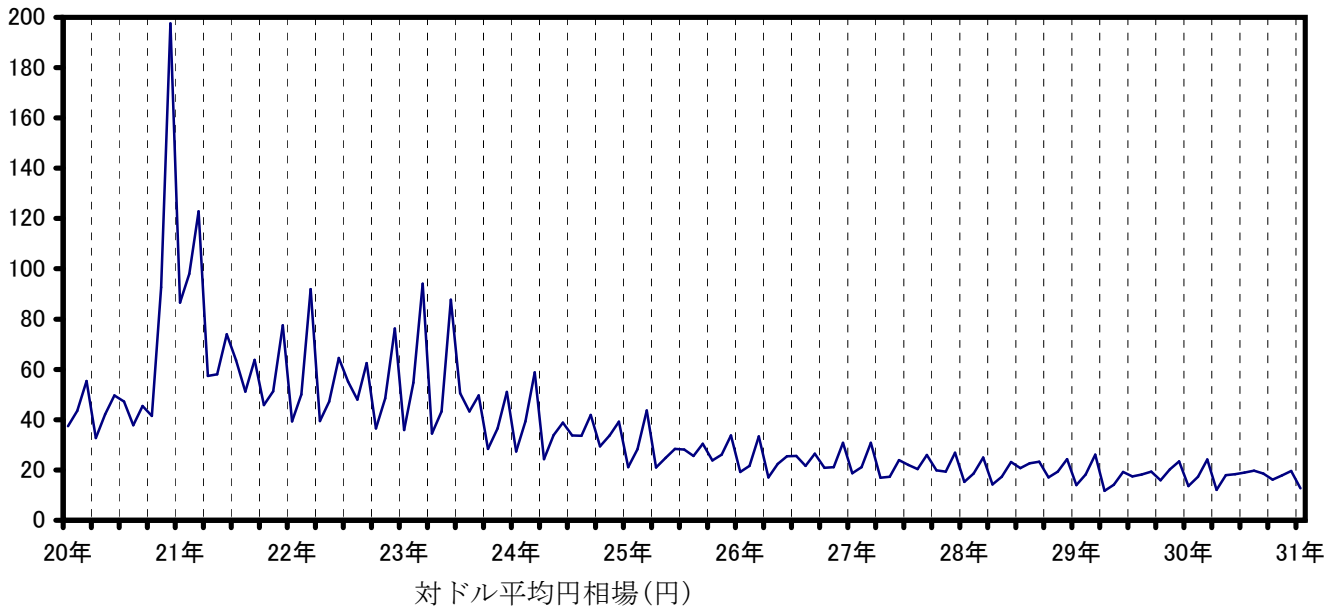
	30年7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月
倒産件数(件)	16	22	10	20	17	17	15	12
前年同月比(%)	▲40.7	4.7	▲56.5	▲13.0	▲19.0	13.3	▲16.6	▲45.4
うち不況型倒産件数(件)	15	20	9	15	15	17	15	9
負債総額(百万円)	2,099	2,327	662	3,587	2,238	2,489	1,235	1,495
前年同月比(%)	▲33.5	38.5	▲57.5	1.2	▲73.3	98.3	▲47.8	▲44.3

<資料>(株)東京商工リサーチ静岡支社

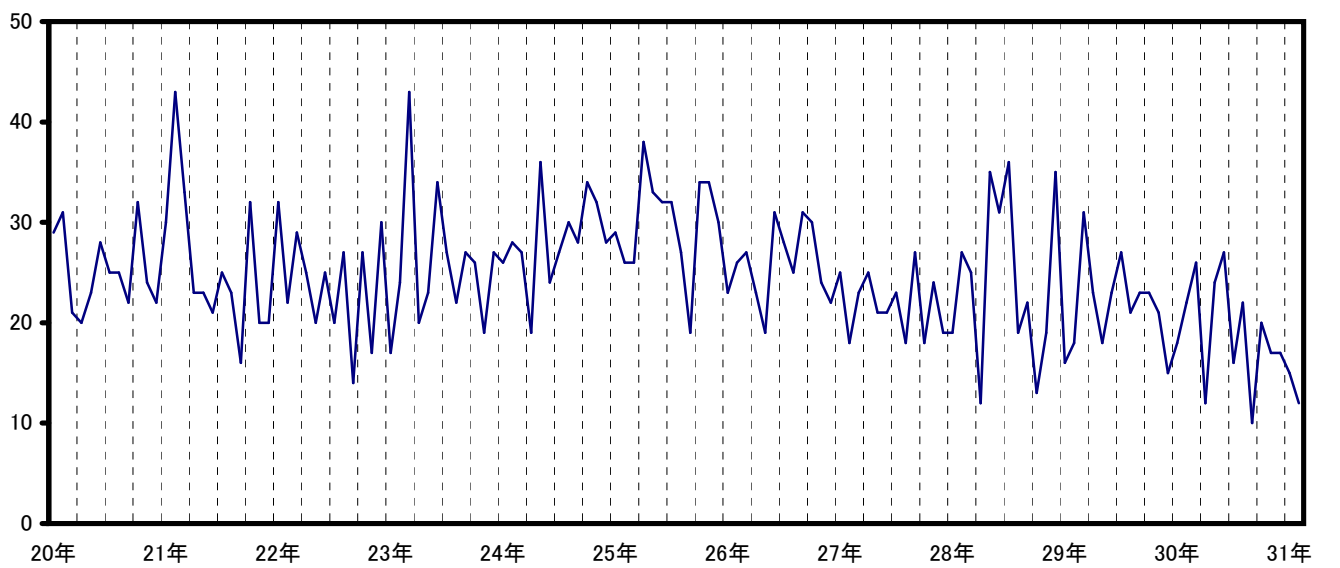
<過去10年間の推移>

信用保証協会保証承諾金額(十億円)

<資料>県信用保証協会



<資料>(株)東京商工リサーチ静岡支社



Ⅲ 平成31年1月を中心とした静岡県主要産業の動向

業 種	産 業 動 向
二 輪 車	<p>12月の国内二輪車生産台数は、53,301台（前年同月比 6.1%減）と、4か月ぶりに前年実績を下回った。原付第一種（50cc以下）は、12,655台（同 21.3%増）と、6か月連続で前年実績を上回った。原付第二種（51cc～125cc）は、2,725台（同 81.8%増）と、3か月連続で前年実績を上回った。軽二輪車（126cc～250cc）は、3,029台（同 28.3%減）と、3か月連続で前年実績を下回った。小型二輪車（251cc以上）は、34,892台（同 14.1%減）と、4か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>出荷台数は、国内向けは、25,836台（同 16.3%増）と、4か月連続で前年実績を上回った。輸出向けは、43,651台（同 4.2%減）と、3か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
自 動 車	<p>12月の自動車国内生産台数は、792,271台（前年同月比 0.7%減）と、3か月ぶりに前年実績を下回った。輸出は434,349台（同 0.2%増）と、2か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>国内生産は、トラックが4か月連続で前年実績を上回ったものの、乗用車が3か月ぶりに前年実績を下回ったことから、全体でも3か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
電気機械	<p>1月の冷蔵庫の国内出荷額は228億円（前年同月比 4.6%減）と、3か月ぶりに前年実績を下回り、国内出荷台数は220千台（同 2.3%減）と、4か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>1月のエアコンの国内出荷台数は、家庭向けは570千台（同 10.7%増）と、12か月連続で前年実績を上回った。業務用は60千台（同 1.1%増）と、4か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>12月の携帯電話の国内出荷台数は、1,142千台（同 34.9%減）と、3か月連続で前年実績を下回った。うち、スマートフォンは、751千台（同 41.1%減）と、2か月連続で前年実績を下回った。単月のスマートフォン比率は 65.8%であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本電機工業会、日本冷凍空調工業会、J E I T A / C I A J</p>
生産用機械	<p>1月の工作機械の受注総額は、1,254億100万円（前年同月比 18.8%減）と、4か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>内訳をみると、外需は786億2,900万円（同 20.4%減）と、4か月連続で前年実績を下回った。アジア向けが329億2,500万円（同 36.3%減）と、8か月連続で前年実績を下回った。内需は467億7,200万円（同 15.9%減）と、2か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>県内中小企業からは、「米中貿易戦争の影響により新たな注文が入りにくくなっている」という声が聞かれた。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本工作機械工業会、静岡県中小企業団体中央会</p>

業 種	産 業 動 向
楽 器	<p>1月の県内楽器メーカーの販売金額は、46億890万円（前年同月比 6.5%増）と、4か月連続で前年実績を上回った。内訳は輸出向けが24億4,808万円（同 12.0%増）、国内向けが21億6,081万円（同 0.8%増）だった。</p> <p>ピアノ生産台数は2,738台（同 13.0%増）だった。機種別では、アップライトピアノが1,775台（同 10.8%増）、グランドピアノが963台（同 17.4%増）だった。また、販売台数は、輸出向けが2,026台（同 14.5%増）、国内向けが1,034台（同 6.8%減）だった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県楽器製造協会</p>
紙	<p>1月の紙・板紙の国内出荷高は、1,864千トン（前年同月比 0.5%減）と、3か月連続で前年実績を下回った。内訳は、紙は1,009千トン（同 2.5%減）と、20か月連続で前年実績を下回った。板紙は855千トン（同 1.9%増）と、2か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>品種別では、主力の印刷・情報用紙が、548千トン（同 2.4%減）と、2か月ぶりに前年実績を下回った。ティッシュペーパー、トイレットペーパー等の家庭紙は、142千トン（同 4.9%増）と、2か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本製紙連合会「紙・板紙需給速報」</p>
缶詰・飲料	<p>1月の県内生産量は、食缶類が国内向け925千箱（前年同月比 14.8%増）と、4か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>分類別でみると、水産缶（国内向け）は670千箱（同 18.8%増）と、4か月連続で前年実績を上回った。うち主力であるツナ缶は512千箱（同 20.6%増）と、4か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>農畜産缶（国内向け）は255千箱（同 5.3%増）と、4か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>飲料缶類は、国内向けが4,650千箱（同 0.9%減）と、5か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県缶詰協会</p>
織 維	<p>1月の広幅織物の県内生産は、1,532千㎡（前年同月比 1.1%増）と、4か月連続で前年実績を上回った。このうち、綿布が主体の一般広幅織物の生産は、1,461千㎡（同 0.1%減）と、3か月ぶりに前年実績を下回った。別珍・コールテンの生産は、71千㎡（同 36.5%増）と、16か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>小幅織物の県内生産は、29千㎡（同 7.5%減）と、10か月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞遠州織物工業協同組合、天龍社織物工業協同組合、浜松織物協同組合</p>
家 具	<p>1月の全国百貨店での家具販売額は、44億8,569万円（前年同月比 4.2%減）と、2か月連続で前年実績を下回った。また、大型量販店での家具・インテリアの販売額は、637億3,055万円（同 3.0%増）と、10か月連続で前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本百貨店協会、日本チェーンストア協会</p>

業 種	産 業 動 向
小 売 業	<p>1月の県内百貨店・スーパーの販売額は、34,284百万円（既存店前年同月比6.5%減）と、前年実績を下回った。品目別に見ると、全ての品目（衣料品、身の回り品、飲食料品、家庭用品、その他の商品、食堂・喫茶）の販売額で前年実績を下回った。</p> <p>県内の食品スーパーへの聞き取りでは、暖冬により、青果の相場が安く、売上が伸びなかった。中部の総合スーパーへの聞き取りでは、暖冬の影響で冬物の衣料品、ブーツ等の販売が不調だった。また、中部の百貨店への聞き取りでは、セールを前倒しして実施したことにより婦人服の売上が前年実績を上回っていた。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞関東経済産業局、静岡県地域産業課</p>
観 光	<p>1月の県内主要10観光施設の合計入込客数は約31万人と、前年同月比6.6%増だった。</p> <p>11月に日本平夢テラスが開館したことで、周辺の観光施設では県外からの団体客を中心に増加した。</p> <p>主要有料道路（5路線）合計の通行車両数は、約68万台と、前年同月に比べて5.6%増だった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県観光政策課</p>

＝ IVデータからみた県内主要産業 ＝

<二輪車>

	30年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
完成車生産台数(台)	14,242	15,413	12,784	10,823	21,457	29,265	26,209	24,560	24,286
前年同月比(%)	▲ 26.9	▲ 10.9	▲ 14.7	▲ 32.8	44.1	72.9	56.1	79.2	84.4
KD輸出額(百万円)	574	570	589	624	709	779	743	754	765
前年同月比(%)	▲ 9.7	▲ 20.1	▲ 23.7	8.5	43.0	29.3	22.5	42.0	41.9

<楽器>

	30年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
生産総額(百万円)	2,565	3,178	3,187	2,767	2,768	3,478	3,348	2,952	2,812
前年同月比(%)	▲ 27.8	▲ 14.8	▲ 5.0	▲ 5.7	▲ 10.1	5.3	0.4	▲ 10.5	10.9

<缶詰>

	30年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
食缶生産高(千ケース)	960	963	996	966	943	1,043	1,034	949	925
前年同月比(%)	8.1	▲ 3.6	3.1	▲ 0.9	▲ 2.2	7.9	4.2	6.1	14.8
うち水産缶詰(%)	0.1	▲ 5.0	5.7	6.8	▲ 0.6	6.4	2.5	7.0	18.8
農畜産缶詰(%)	31.1	▲ 0.3	▲ 2.8	▲ 16.4	▲ 6.3	11.3	8.5	4.2	5.3
飲料缶生産高(千ケース)	8,024	7,394	7,139	7,407	6,774	6,884	7,005	6,135	4,650
前年同月比(%)	▲ 4.4	▲ 7.2	▲ 14.8	▲ 3.2	7.6	15.8	10.4	11.3	▲ 0.9

<繊維>

	30年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
広幅織物(千㎡)	1,176	1,177	1,137	1,149	1,344	1,495	1,718	1,639	1,532
前年同月比(%)	0.5	3.5	1.5	3.5	▲ 4.7	0.1	2.4	3.1	1.1
小幅織物(千㎡)	30	28	27	24	27	29	31	31	29
前年同月比(%)	▲ 7.6	▲ 4.6	▲ 0.1	▲ 4.3	▲ 12.9	▲ 8.7	▲ 5.4	▲ 6.4	▲ 7.5

<観光>

	30年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
観光施設(10施設)入込 (千人)	536	302	287	531	354	372	393	283	305
前年同月比(%)	▲ 15.9	▲ 17.5	▲ 14.2	▲ 5.7	▲ 9.5	12.6	5.2	12.5	6.6
有料道路(5路線)通行量 (千台)	719	656	752	890	675	724	738	730	675
前年同月比(%)	▲ 5.2	▲ 2.1	▲ 2.9	0.8	▲ 4.1	8.1	0.4	0.7	5.6

<特集>平成30年の静岡県経済を振り返って

1 平成30年の概況

“緩やかな回復が続いた静岡県経済”

平成30年の静岡県経済は、好調な輸出や生産の持ち直しの動きを背景に緩やかな回復が続いた。

雇用は、改善の動きが続いている。

2 主要経済指標の動向

消費の動向

◎個人消費は、緩やかに持ち直している。

平成30年の個人消費の動向をみると、大型小売店販売額は、年間を通じて概ね前年を下回って推移し、年間合計でも前年を下回った。専門量販店等販売額は、5月を除き前年を上回って推移し、年間合計でも前年を上回った。自動車(新車)新規登録台数は、6月までは概ね前年を下回って推移したものの、7月以降は持ち直し、年間合計では前年を上回った。新設住宅着工戸数は、前年を下回る月もみられたものの、年間合計ではわずかに前年を上回った。個人消費は、緩やかに持ち直している。

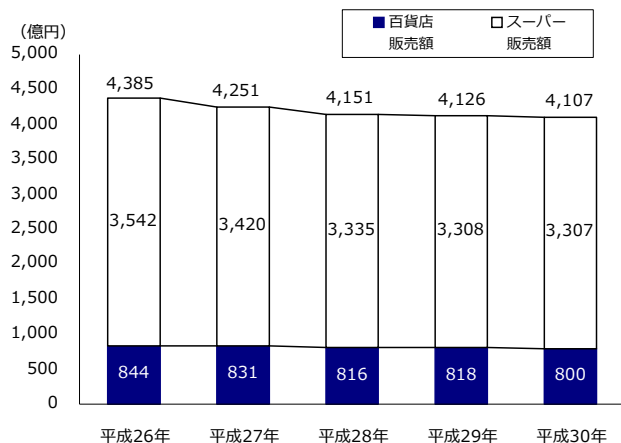
(大型小売店販売額)

大型小売店販売額は、百貨店(前年比2.2%減)、スーパー(同0.6%減)いずれも減少したことから、全体では4,107億円(同0.9%減)と、4年連続で減少した。

(専門量販店等販売額)

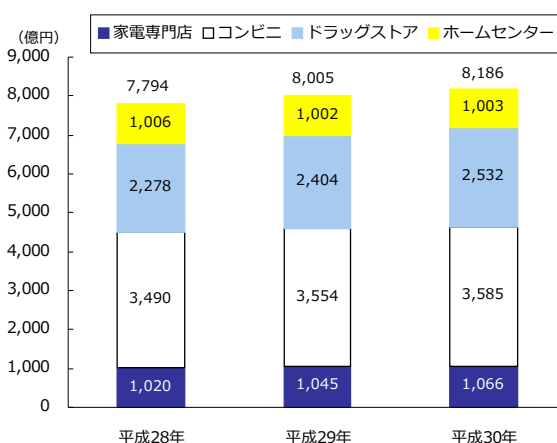
専門量販店等販売額は、ホームセンターは概ね横ばいで推移しているものの、家電専門店、コンビニエンスストア、ドラッグストアは3年連続で増加したことから、全体では8,186億円(前年比2.3%増)と、3年連続で増加した。

○大型小売店販売額の推移



<資料>経済産業省

○専門量販等販売額の推移



<資料>経済産業省

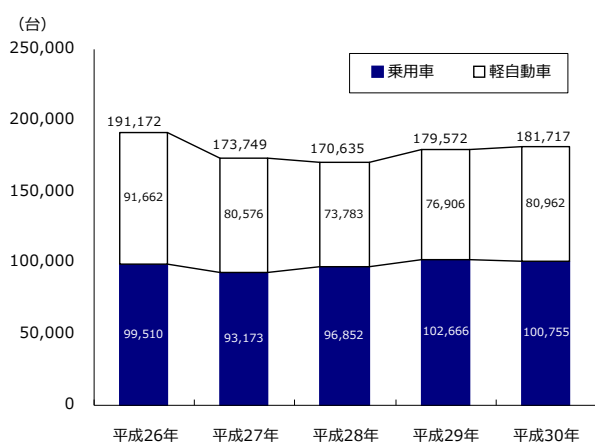
(自動車(新車)新規登録台数)

自動車(新車)新規登録台数は、乗用車(前年比1.9%減)は3年ぶりに減少したものの、軽自動車(同5.3%増)は2年連続で増加したことから、全乗用車では181,717台(同1.2%増)と、2年連続で増加した。

(新設住宅着工戸数)

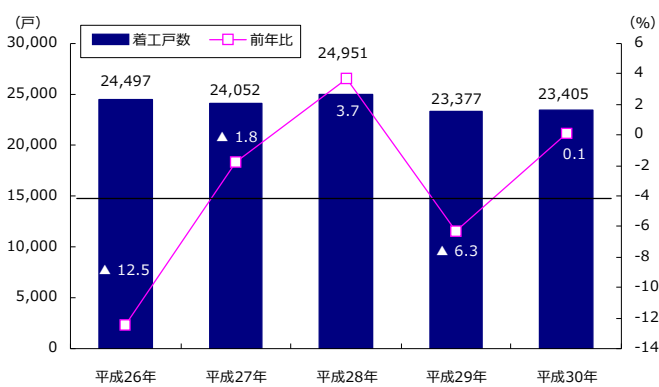
新設住宅着工戸数は、持家(前年比0.9%減)は3年連続、貸家(同4.7%減)は2年連続で減少したものの、分譲住宅(同13.2%増)は2年ぶりに増加したことから、合計では、23,405戸(同0.1%増)と、2年ぶりに増加した。

○自動車(新車)登録台数の推移



<資料> 県税務課

○新設住宅着工戸数の推移



<資料> 県住まいづくり課

投資の動向

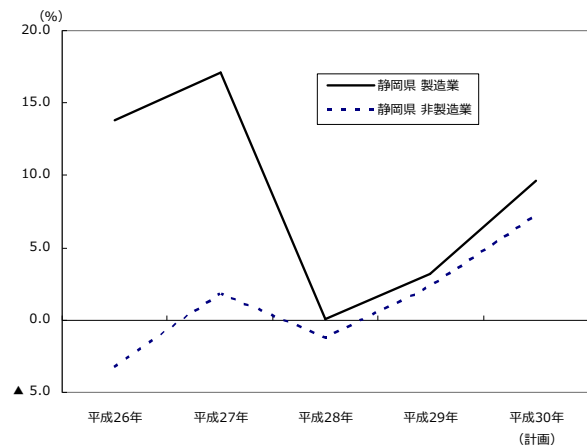
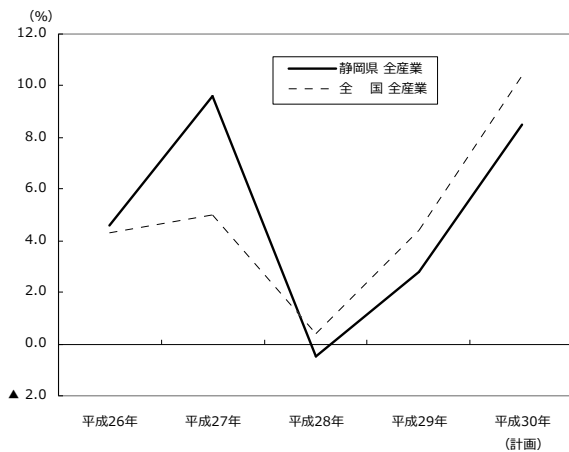
◎公共投資は請負金額は前年を上回り、請負件数は前年を下回った。

公共投資は、請負金額は3,172億円(前年比8.6%増)と、3年連続で増加したものの、請負件数は7,667件(同0.1%減)と、2年ぶりに減少した。

◎設備投資は増加の動きがみられる。

設備投資は、能力増強投資のほか、生産性向上関連や研究開発関連の投資がみられるなど、増加が続いている。平成30年度(計画)は、設備投資(含む土地投資)、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資(除く土地投資)のいずれも、製造業、非製造業ともに増加する計画となっており、全産業でも2年連続で増加する計画となっている(日本銀行 企業短期経済観測調査 平成30年12月調査)。

○企業短期経済観測調査結果の推移（設備投資＜含む土地投資＞）



＜資料＞日本銀行静岡支店

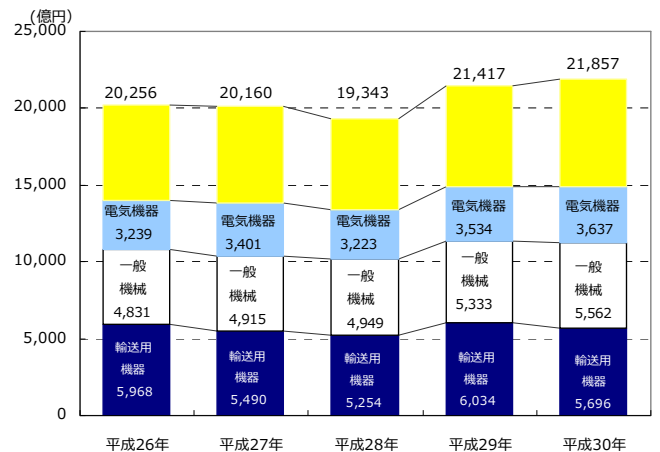
輸出入の動向

◎輸出は、増加している。

輸出は、年間を通じて概ね前年を上回って推移し、輸出額は2兆1,857億円（前年比 2.1%増）と、平成21年以降の最高額となった前年を更に上回り、2年連続で増加した。また、品目別では、自動車や二輪自動車類をはじめとした輸送用機器は減少したものの、原動機が好調に推移した一般機械や電気機器は増加した。

輸入は、3月を除き前年を上回って推移し、輸入額は1兆1,061億円（前年比 11.4%増）と、2年連続で増加した。

●輸出額の推移



＜資料＞名古屋税関清水支署

生産の動向

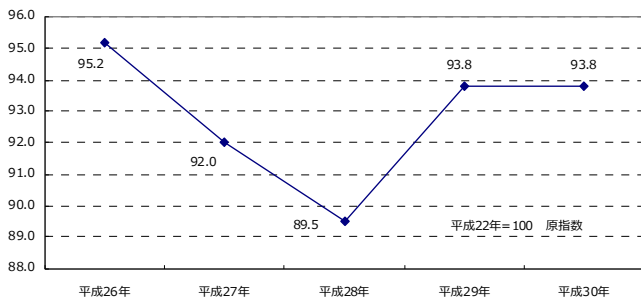
◎生産は、持ち直しの動きがみられる。

平成30年の生産の動向をみると、6月までは概ね前年を下回って推移したものの、7月以降は概ね前年を上回って推移し、持ち直しの動きがみられた。

(鉱工業生産指数)

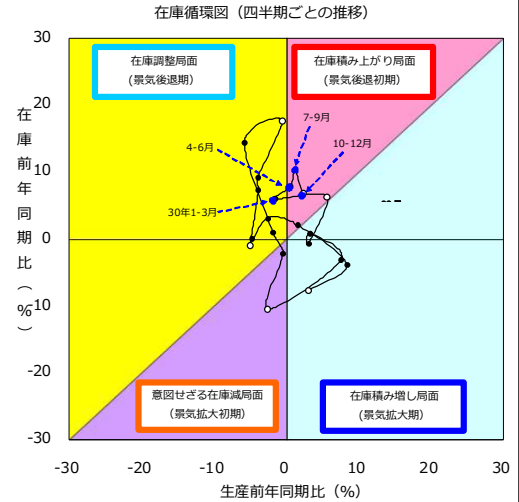
鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、93.7、原指数は93.8と、いずれも100を下回った。また、前年と同水準だった。業種別では、はん用・生産用・業務用機械（前年比 7.7%減）、輸送機械（同 1.0%減）、パルプ・紙・紙加工品（同 0.3%減）が減少したものの、電気機械（同 2.7%増）、化学（同 2.5%増）、食料品・たばこ（同 1.4%増）が増加した。

● 鉱工業生産指数の推移（原指数）



<資料> 県統計調査課

● 在庫循環図



<資料> 県統計調査課

(鉱工業在庫指数)

鉱工業在庫指数（季節調整済指数）は、124.2、原指数は124.1（前年比 7.6%増）と、5年連続で増加した。

なお、在庫循環図でみると、「在庫積み上がり局面（景気後退初期）」に位置しており、生産は前年並の水準で推移したものの、生産の伸びを上回るペースで在庫が増加した。

雇用の動向

◎雇用は、改善の動きが続いている。

平成30年の雇用の動向をみると、有効求人倍率は、常に1.60倍を上回る高水準で推移し、改善の動きが続く中で、7月には1.71倍となった。12月には1.66倍となったものの、年間を通じて全国値を上回って推移した。

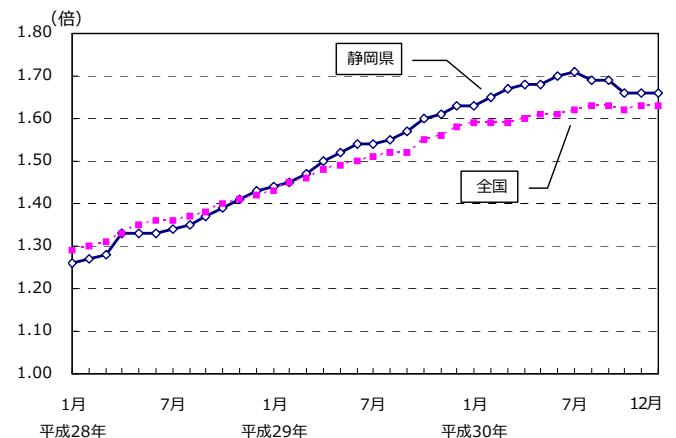
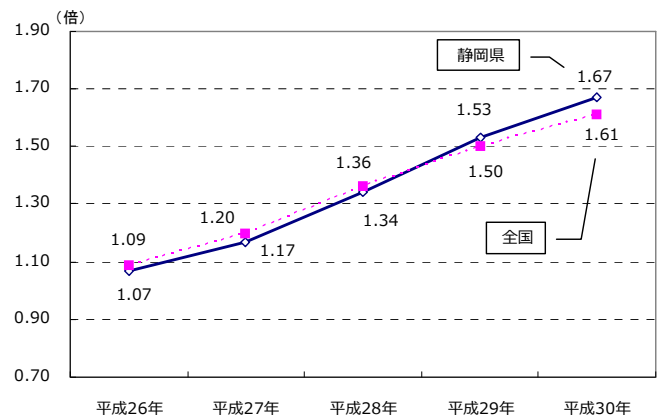
(有効求人倍率)

有効求人倍率は、7月まで概ね前月を上回って推移したものの、8月以降は緩やかに低下し、12月には1.66倍となった。また、平成30年の年間有効求人倍率は1.67倍（前年比 0.14ポイント増）と、9年連続で上昇し、2年連続で全国値を上回った。

(雇用保険受給者実人員)

雇用保険受給者実人員は、年間を通じて前年を下回って推移し、12月時点で前年に比べて5,310人、4.1%の減少となった。

● 有効求人倍率の推移（年別、月別）



<資料> 厚生労働省

(所定外労働時間指数)

所定外労働時間指数は、年間を通じて前年を下回って推移し、調査産業全体の平均は、94.4（前年比 8.6%減）と、2年連続で減少した。

その他

【物 価】

国内企業物価指数（平成27年=100）は、年間を通じて前年を上回って推移したことから、平成30年平均は101.3（前年比 2.6%増）となり、前年を2.6ポイント上回った。

【金 融】

県内金融機関の貸出残高は、6月まで前年を上回って推移したものの、7月以降は前年を下回って推移し、12月末時点の貸出残高は13兆8,841億円（前年同月比 1.9%減）と、前年を2,735億円下回った。

県信用保証協会の保証承諾件数は21,882件（前年比 1.7%減）、金額は2,143億円（同 1.5%減）と、いずれも減少した。

【為 替】

円相場（対ドル平均）は、1月の110円77銭から春先までは円高が進んだものの、4月以降は緩やかな円安傾向で推移し、12月には112円45銭となった。

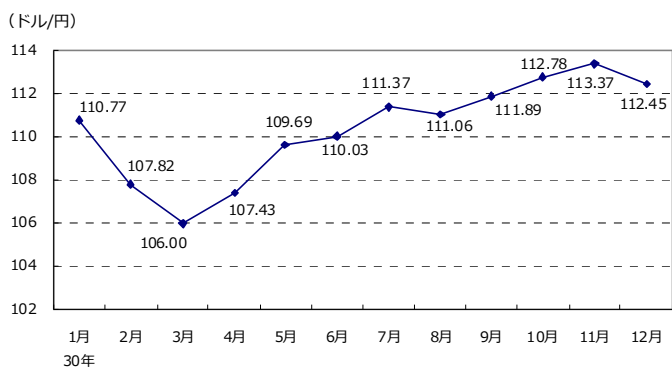
平成30年平均は110円40銭で、前年と比べて1円80銭の円高となった。

【企業倒産】

負債総額1,000万円以上の企業倒産件数は231件（前年比 10.8%減）となり、前年より28件減少した。負債総額は320億円（同 33.5%減）と、2年ぶりに減少した。

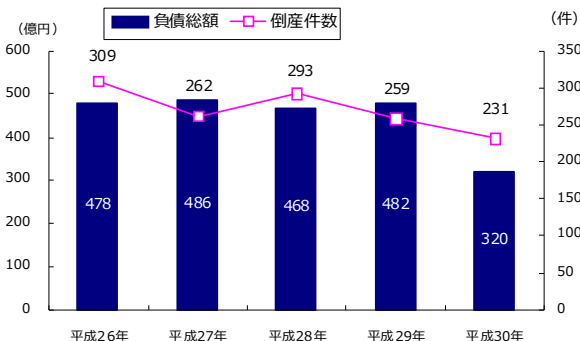
なお、既往のシワ寄せ、販売不振、売掛金等回収難を原因とするいわゆる「不況型倒産」は208件（同 12.2%減）となり、全件数の90.0%を占めた。

●円相場の推移



<資料>日本銀行 東京為替相場

●企業倒産の動向



<資料>(株)東京商工リサーチ静岡支店

平成30年の静岡県主要産業の動向

業 種	産 業 動 向
二 輪 車	<p>平成30年の国内二輪車生産台数は、651,884台（前年比 0.8%増）と、3年連続で前年実績を上回った。</p> <p>出荷台数は、国内向けは362,822台（同 1.5%増）と、2年連続で前年実績を上回った。輸出向けは464,077台（同 0.1%減）と、3年ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>こうした状況の中、二輪車の将来を考える官民一体の会議として、平成25年9月に立ち上げた「バイク・ラブ・フォーラム（略称B L F）」が、平成30年8月に第6回目の会議を岩手県一関市で開催し、バイク文化の創造策や国内二輪車市場の活性化策について議論した。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
自動車	<p>平成30年の自動車国内生産台数は、乗用車、トラック、いずれも前年実績を上回ったことから、全体でも9,728,528台（前年比 0.4%増）と、2年連続で前年実績を上回った。なお、輸出は、4,817,470台（同 2.4%増）と、4年連続で前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
電気機械	<p>平成30年の冷蔵庫の国内出荷台数は、3,933千台（前年比 1.6%増）と、3年連続で前年実績を上回った。</p> <p>平成30年のエアコンの国内出荷台数は、家庭向けは9,650千台（同 8.1%増）と、3年連続で前年実績を上回った。業務用は871千台（同 6.2%増）と、2年連続で前年実績を上回った。</p> <p>特にエアコンは、長引く猛暑の影響により、家庭用・業務用いずれも前年実績を上回った。</p> <p>平成30年の携帯電話の国内出荷台数は、14,824千台（同 17.6%減）と、2年ぶりに前年実績を下回った。うち、スマートフォンは、9,957千台（同 18.6%減）と、単年のスマートフォン比率は67.2%だった。海外メーカーのラインアップ増加による競争激化もあり、国内メーカーの出荷台数が減少したと考えられる。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本電機工業会、日本冷凍空調工業会、 J E I T A / C I A J、静岡県中小企業団体中央会</p>

業 種	産 業 動 向
生産用機械	<p>平成30年の工作機械の受注総額は、1兆8,157億7,100万円（前年比 10.3%増）と、2年連続で前年実績を上回った。</p> <p>内訳をみると、外需は1兆654億2,800万円（同 4.8%増）と、2年連続で前年実績を上回った。アジア向けが4,789億800万円（同 6.8%減）、欧州向けが2,444億2,700万円（同 14.4%増）、北米向けが3,257億600万円（同 20.8%増）だった。</p> <p>また、内需は7,503億4,300万円（同 19.2%増）と、2年連続で前年実績を上回った。特に、自動車は2,482億9,600万円（同 23.5%増）と、2年連続で前年実績を上回った。</p> <p>世界的な自動化需要や国内の人手不足に伴う省力化需要などにより、受注は好況だった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本工作機械工業会、静岡県中小企業団体中央会</p>
楽 器	<p>平成30年の県内楽器メーカーの販売金額は、589億800万円（前年比 3.3%減）で、内訳は輸出向けが304億5,800万円（同 3.7%減）、国内向けが284億5,100万円（同 2.9%減）だった。</p> <p>ピアノ生産台数は34,200台（同 1.1%減）と、2年連続で前年実績を下回った。機種別では、アップライトピアノが22,414台（同 4.7%減）、グランドピアノが11,786台（同 6.4%増）だった。また、販売台数は、輸出向けが25,671台（同 4.0%増）、国内向けが13,246台（同 5.6%減）だった。</p> <p>販売金額と生産台数の減少傾向が続く中、業界団体が主催する国内最大の楽器展示会「2018楽器フェア」が都内で開催され、本県からも楽器メーカーが数社出展し、新製品のPRなどを行った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県楽器製造協会</p>
紙	<p>平成30年の紙・板紙の国内出荷高は、24,543千ト（前年比 1.4%減）と、5年連続で前年実績を下回った。</p> <p>内訳は、紙が13,017千ト（同 3.6%減）と、5年連続で前年実績を下回り、板紙は11,525千ト（同 1.2%増）と、3年連続で前年実績を上回った。板紙は、飲料を含む加工食品向けやインバウンドによる需要の増加から、堅調に推移した。</p> <p>品種別では、ティシュペーパーやトイレットペーパー等の家庭紙は、1,777千ト（同 0.7%減）と、2年連続で前年実績を下回ったものの、生活必需品として底堅く推移している。印刷・情報用紙は7,189千ト（同 3.8%減）と、5年連続で前年実績を下回った。電子化の進行などの影響で、グラフィック用紙を中心に電子媒体へのシフトが続いている。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本製紙連合会</p>

業 種	産 業 動 向
缶詰・飲料	<p>平成30年の県内生産量は、食缶類が国内向け11,492千箱（前年比 1.7%増）と、2年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>分類別でみると、水産缶（国内向け）は7,981千箱（同 0.6%増）、うち主力であるツナ缶も5,990千箱（同 1.2%増）と、2年ぶりに前年実績を上回った。農畜産缶（国内向け）は3,510千箱（同 4.3%増）と、3年連続で前年実績を上回った。飲料缶類は、国内向けが80,474千箱（同 2.6%減）と、7年連続で前年実績を下回った。</p> <p>魚価の高騰等マイナス要因はあるものの、水産缶の生産量は増加傾向にある。業界では、積極的なPRによる需要の開拓や、新商品の開発等に取り組んでいる。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡缶詰協会</p>
織 維	<p>平成30年の広幅織物の県内生産は、16,288千㎡（前年比 0.1%減）だった。このうち、綿布が主体の一般広幅織物の生産は、15,445千㎡（同 1.6%減）であり、別珍・コールテンの生産は、843千㎡（同 36.7%増）だった。</p> <p>小幅織物の県内生産は、359千㎡（同 4.8%減）だった。</p> <p>産地では、受注量が減少しており、生産量が減少傾向にある。このため、業界としては、組合を中心に引き続き、国内外の各種展示会への出展による新規需要・販路開拓を図っている。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞遠州織物工業協同組合、天龍社織物工業協同組合、浜松織物協同組合</p>
家 具	<p>平成30年の全国百貨店での家具販売額は、614億3,007万円（前年比 0.8%減）と、5年連続で前年実績を下回った。また、大型量販店での家具・インテリアの販売額は、6,994億2,866万円（同 1.7%増）と、6年連続で前年実績を上回った。</p> <p>こうした中、県内の業界は、住宅メーカーと組んでの家具製造やデザイナーとの共同制作、家具生産者等を中心に製造工程を公開するオープンファクトリーの開催など、新たな取組に挑戦している。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本百貨店協会、日本チェーンストア協会、日本経済新聞社、地域産業課</p>
小売業	<p>平成30年の県内の百貨店及びスーパーの売上高は、410,652百万円と、対前年比0.9%減だった。</p> <p>店舗種別ごとに見ると、百貨店の売上高は、80,005百万円と、対前年比2.2%減だった。百貨店への聞き取りでは、インバウンドによる化粧品等の売上が好調で前年同月を上回ることもあったほか、物産展等の催事が盛況だった。</p> <p>また、スーパーの売上高は330,646百万円と、対前年比0.6%減だった。スーパーへの聞き取りでは、原材料価格及び物流コストの上昇等の影響で、客単価が前年同月を上回る傾向にあった。</p> <p>そのほか、百貨店とスーパーともに年間を通じて、近隣への出店や近隣店舗のリニューアルによって売上が減少していた。また、人手不足への対応としてキャッシュレス決済の推進や営業時間の短縮、セルフレジやセミセルフレジの導入、労働環境の改善などに取り組んでいた。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県百貨店協会、静岡県地域産業課</p>
観 光	<p>平成30年の県内主要10観光施設の合計入込客数は、約464万人で、前年比3.3%減と、前年実績を下回った。</p> <p>主要有料道路（5路線）合計の通行車両は、約863万台で、前年比 1.5%減と、前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県観光政策課</p>

本書で掲載している県内の主要統計資料の時系列（過去10年間）のデータは静岡県公式ホームページの「統計センターしずおか」で公表しています。

静岡県公式ホームページ⇒統計・調査⇒統計センターしずおか⇒県内主要統計指標
<http://toukei.pref.shizuoka.jp/>

需要面	生産面	雇用面	その他
・大型小売店販売額	・鉱工業生産指数	・有効求人倍率	・国内企業物価指数
・専門量販店等販売額	・鉱工業在庫指数	・雇用保険受給者実人員	・県内金融機関貸出残高
・自動車新規登録台数		・完全失業率	・信用保証協会保証金額
・新設住宅着工戸数		・所定外労働時間指数	・企業倒産件数
・清水税関支所管内輸出額			
・清水税関支所管内輸入額			

提供いただいている資料

資料名	提供元	ホームページアドレス
公共工事請負金額	東日本建設業保証（株）	http://www.ejcs.co.jp/region/index.html
設備投資	日本銀行静岡支店	http://www3.boj.or.jp/shizuoka/kouhyou/hyousi_f.html
貸出約定金利		
国内企業物価指数	日本銀行	http://www.boj.or.jp/type/statat/boj_stat/index.htm
円相場		

参考となる全国の資料等

資料名	提供元	ホームページアドレス
鉱工業生産指数	経済産業省	http://www.meti.go.jp/statistics/index.html
大型小売店販売額		
専門量販店等販売額		
輸出入	財務省	http://www.mof.go.jp/siryou.htm
国際収支		
機械受注	内閣府	http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/juchu.html
完全失業率	厚生労働省	http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/index.html
有効求人倍率		

静岡県月例経済報告
平成31年3月号 通巻515号

発行 静岡県経済産業部
平成31年3月

編集 経済産業部産業革新局産業政策課
〒420-8601
静岡市葵区追手町9-6

TEL 054-221-2635

FAX 054-221-3217

E-mail sangyo-seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

URL <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>